

大村市学校施設長寿命化計画

令和2年3月

大村市教育委員会

目 次

序章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

1 背景と目的	1
2 計画の位置づけ	2
3 計画期間	3
4 計画における対象施設	3

第1章 学校施設の目指すべき姿

1 学校施設の今日的な課題	4
(1) 安全・快適な学校施設の環境向上	4
(2) 社会の変化に対応した教育機器・教材の拡充	4
(3) 生活空間としての施設の充実	4
(4) 地域のコミュニティ施設としての活用	4
2 学校施設のあり方	5

第2章 学校施設の実態

1 学校を取り巻く状況	6
(1) 人口・世帯数の推移	6
(2) 校区別人口の推移	7
(3) 財政状況	9
2 運営状況・活用状況の把握	11
(1) 公共施設全体の保有状況	11
(2) 学校施設の保有状況	12
(3) 児童生徒数及び学級数の変化	16
(4) 学校の維持管理コスト	22
(5) 学校施設の実態を踏まえた課題	23
3 学校施設の老朽化状況	25
(1) 学校施設の老朽化状況の把握	25

第3章 学校施設整備の基本方針

1 学校施設の規模・配置計画等の方針	30
2 改修等の基本的な方針	32
(1) 長寿命化の方針	32
(2) 予防保全の方針	34
(3) 目標使用年数の設定	35
(4) 改修周期の設定	36

第4章 改修等の整備水準	37
--------------	----

第5章 維持管理の項目・手法等

1 維持管理の必要性	39
2 維持管理の項目	40
3 点検・評価結果の蓄積	42

第6章 学校施設長寿命化の実施計画

1 ライフサイクルコストの算定	43
2 事業計画	46

第7章 長寿命化計画の継続的運営方針

1 推進体制等の整備	49
2 フォローアップ	51

序章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

1 背景と目的

本市の学校施設は、高度経済成長期を契機として昭和 40 年代から 60 年代に集中して整備され、築 30 年以上を経過する建物が全体の 8 割を占めている状況です。

その中で、校舎、屋内運動場及び武道場の主要建物の合計数 84 棟のうち、51 棟が旧耐震基準である昭和 56 年以前に建設されたものであったため、これらを対象に耐震診断を行い、診断結果に基づいた耐震補強工事等を平成 26 年度までに完了しました。

しかし、耐震補強を行った建物を含め、建築から長い年数が経過した建物や設備の老朽化により、今後、建替又は大規模改修に多額の費用が必要となると考えられます。

しかしながら、本市の財政状況を踏まえると、学校施設の整備を集中的に行うことは困難であり、計画的な施設整備を行う必要があります。

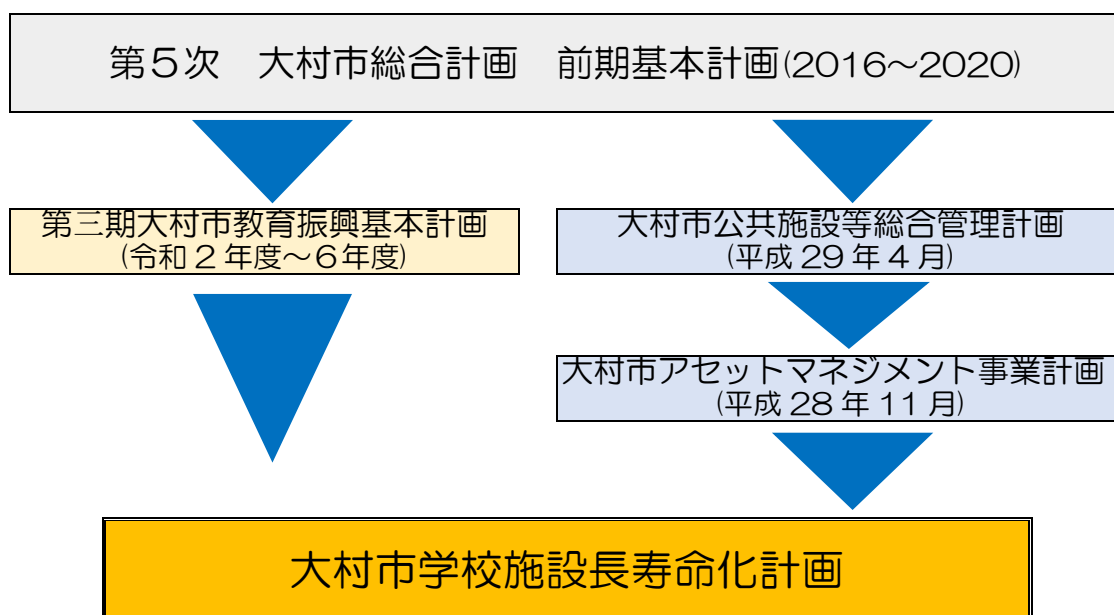
全国的に同様の傾向が見られる中、文部科学省は、「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」を公表し、単なる更新のための改修・改築ではなく、施設を長い期間、有効利用できる長寿命化改修への転換、計画的な維持管理に向けた中長期計画の策定・実施の考え方を示しています。

学校施設の長寿命化計画は、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減・予算の平準化を実現しつつ、こうした学校施設に求められる機能を確保するため、域内の学校施設の老朽化等の状況を把握し、地域における学校施設の役割等を考慮した上で、中長期的な施設整備の具体的方針・計画を示すものである。

学校施設長寿命化計画（以下「本計画」という。）は、上記の背景を踏まえ、中長期的な視点から学校施設として求められる機能や役割などを考慮しながら長寿命化改修、建替等の方向性や優先順位等を設定し、施設整備に要するライフサイクルコストの縮減、財政負担の平準化、児童生徒の安全性の確保や適切な教育環境の充実を図ることを目的として、策定するものです。

2 計画の位置づけ

本計画は、以下の上位・関連計画を踏まえ、多様な機能や役割を充足しつつ、施設整備を計画的に行い、長寿命化を図ることを目的として策定します。



上位・関連計画	学校施設に関する内容
第5次 大村市総合計画 前期基本計画	政策 1-2：豊かな学力と生きる力を育む教育の充実 - 施策 3：教育環境の充実 ● 児童生徒が安全で安心して学べる環境づくりを目指し、老朽化した学校施設やグラウンドの改修などを計画的に進めます。また、効果的な授業が実践できるよう、ICT 機器等を計画的に整備します。
第三期 大村市教育振興基本計画	目指すべき人間像 1：日本の未来や新たな価値を創造し、社会を生き抜く人間 - 施策 1 1 教育環境の充実 ● 校舎や屋内運動場の劣化度を調査し、アセットマネジメント計画及び学校施設長寿命化計画に基づき、計画的・効果的な整備に取り組みます。 ● 学校施設は子どもたちの活動の場であるとともに、災害時には地域住民の避難場所であることから、定期的な点検を実施するなど適切な施設管理を行い、安全・安心な教育環境の確保に努めます。 ● トイレの洋式化など、学校施設の環境改善に取り組みます。
大村市 アセットマネジメント 事業計画	学校校舎 ：おおよそ 2 年に 1 校のペースで建替を実施する。 学校体育館 ：おおよそ 3 年に 2 校のペースで建替を実施する。 その他施設 ：「予防保全」により計画的な改修を行い、60～80 年使用する。

3 計画期間

本計画の上位計画である大村市公共施設等総合管理計画（計画期間：平成 29～令和 32 年度）及び大村市アセットマネジメント事業計画（計画期間：令和 3～32 年度）の計画期間を踏まえ、本計画の計画期間を令和 5 年度から令和 14 年度までの 10 年間とします。

また、施設の老朽化の状況を継続的に把握するとともに、計画の進捗状況のフォローアップの結果や社会環境の変化等の状況を踏まえ、必要に応じ見直すものとします。

4 計画における対象施設

本計画における対象施設は、下表に示す小学校 15 校、中学校 6 校の校舎、屋内運動場及び武道場とします。

学校施設一覧

区分		施設名	所在地	校地面積 (㎡)	対象建物 ^(※)	延床面積 (㎡)
小学校	1	三浦小学校	日泊町 590	11,990	3	2,284
	2	鈴田小学校	大里町 1546-1	12,600	3	2,833
	3	三城小学校	東三城町 17	15,944	4	4,206
	4	大村小学校	玖島 1 丁目 61	18,589	4	5,474
	5	東大村小学校	東大村 2 丁目 1112-31	9,409	2	1,943
	6	西大村小学校	乾馬場町 486	19,068	3	4,949
	7	中央小学校	松並 1 丁目 1275	31,171	6	5,054
	8	竹松小学校	宮小路 1 丁目 481	22,761	5	7,407
	9	萱瀬小学校	宮代町 1167-1	13,723	3	2,200
	10	黒木小学校	黒木町 530	7,700	2	1,533
	11	福重小学校	福重町 230	15,032	4	2,456
	12	松原小学校	松原本町 5-1	9,963	2	3,399
	13	放虎原小学校	古賀島町 133-25	21,472	5	5,280
	14	旭が丘小学校	木場 1 丁目 129-1	17,589	4	4,360
	15	富の原小学校	富の原 1 丁目 1392-1	18,470	4	5,255
中学校	1	玖島中学校	久原 1 丁目 265	33,302	5	8,223
	2	西大村中学校	松並 1 丁目 116-3	32,793	7	7,391
	3	萱瀬中学校	田下町 510	11,940	3	2,300
	4	郡中学校	沖田町 69	40,327	6	7,565
	5	大村中学校	赤佐古町 78	35,711	4	7,109
	6	桜が原中学校	桜馬場 2 丁目 487-1	31,871	5	7,804

※：延床面積 200㎡以上

第1章 学校施設の目指すべき姿

1 学校施設の今日的な課題

全国的な傾向に反して人口増加が続いている本市においても、すでに年少人口は減少傾向にあり、近い将来には人口減少と少子高齢化が加速することが予測されており、学校施設の需要に対する変化が生じることが考えられます。さらに、国際化や高度情報化等のさらなる進展等、社会情勢が急激に変化する中、本市の学校施設が目指すべき姿を検討する必要があります。

(1) 安全・快適な学校施設の環境向上

本市の学校施設の耐震化は完了していますが、建築後、30年以上を経過した建物が8割を占め、老朽化した校舎等が多数存在する状況にあります。建物の改修を計画的に進め、児童生徒が、安全でかつ快適に学ぶことができる教育環境の充実を図ることが必要です。

また、習熟度別指導や少人数指導、特別支援教育など、児童生徒一人ひとりの教育的なニーズに応えることができる施設整備が求められています。

(2) 社会の変化に対応した教育機器・教材の拡充

グローバル化の進展等により、社会全体が急速に変化していく中、情報化社会に対応したデジタル教材の活用や情報教育を推進するためのICT環境の充実、社会状況の変化や多様な学習活動に対応した教材の整備等を計画的に行い、児童生徒の学習能力の向上のための教育環境の充実を図っていくことが必要です。

(3) 生活空間としての施設の充実

児童生徒が1日の大半の時間を過ごす学校施設は、教育の場であるのみならず、生活の場として、充実した学校生活を過ごすことができる豊かで潤いのある空間としていくことが重要です。そのためには、学習の場としての整備だけではなく、交流の場の確保等多様な空間を整備することが必要です。

さらに、安全に施設が利用できるバリアフリー化や、不審者等に対する防犯対策を進めるとともに、トイレの設備など衛生的な環境整備を図る必要があります。

(4) 地域のコミュニティ施設としての活用

小中学校は、学校と地域との連携による多様な交流の場や地域住民の健康づくりの場として活用されています。また、災害時等の避難場所に指定されています。このように、地域のコミュニティ施設としての多様な機能に対応できる施設や設備の整備が必要です。

2 学校施設のあり方

第三期大村市教育振興基本計画では、「すべての子どもと地域のミライをはぐくみ、ささえ、つなぐ、「教育のまち大村」」を基本理念に掲げています。

学校施設は、その目標実現のための中心的な場所として、以下に挙げる内容を目指します。

安 全 性

- 地震、台風、大雨等に強い学校施設
- 防犯に対応した学校施設
- 安全で安心して生活できる環境

快 適 性

- 授業に集中でき、学習効率向上に資する快適な学習環境
- バリアフリーに配慮した環境
- 児童生徒の健康や衛生面に配慮した環境
- 児童生徒の交流を促す等、生活の場として快適に過ごすことができる環境
- 教職員が快適に働ける環境
- 省エネルギーに配慮した施設の整備

学習活動への適応性

- 個別指導や習熟度別指導等多様な学習形態を展開するための環境
- 児童生徒の自発的な学習や読書活動を促すための環境
- 社会性を身に付けるための空間
- 特別支援教育に配慮した学校施設
- 進路指導や相談等、児童生徒の支援・指導に取り組みやすい空間
- 充実した運動ができる環境

環境への適応性

- 環境を考慮した学校施設

地域の拠点化

- 地域住民が健康づくりや学習拠点等に活用できる開かれた環境
- 避難所としての機能を有する施設

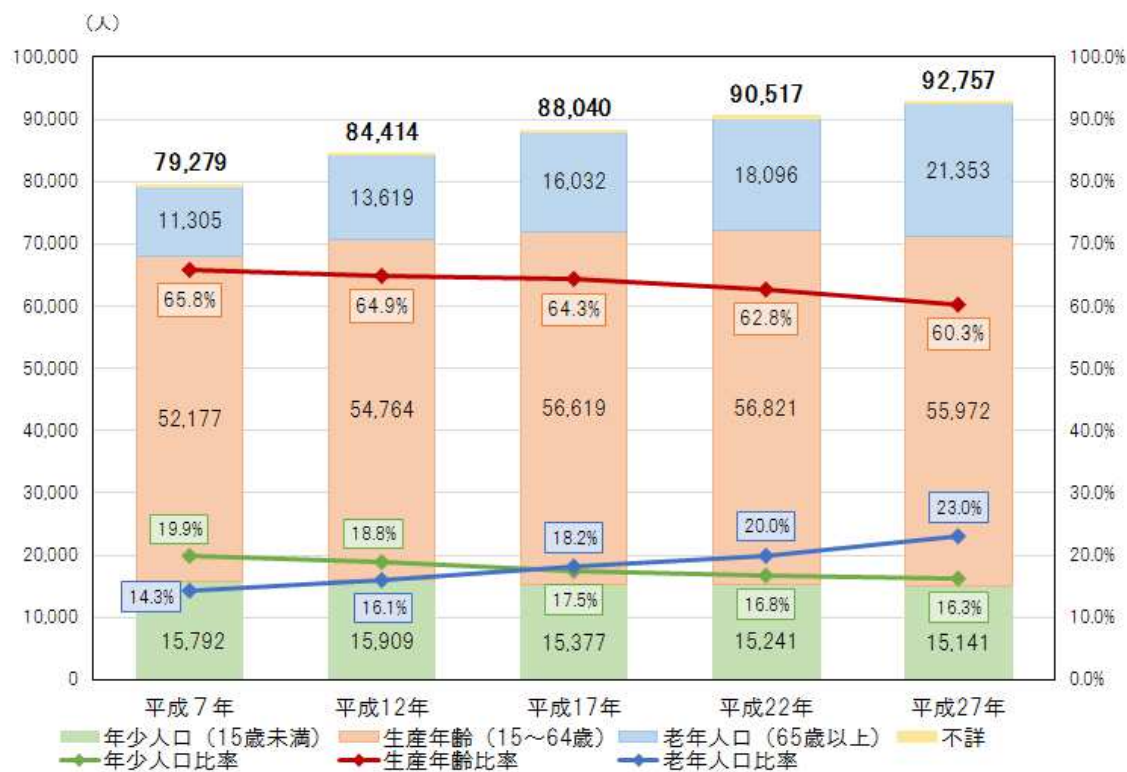
第2章 学校施設の実態

1 学校を取り巻く状況

(1) 人口・世帯数の推移

全国的な人口減少の傾向に反して、本市の人口は増加を続けており、平成 27 年の国勢調査時点で 92,757 人となっています。

しかしながら、少子高齢化の傾向は全国と同じように進みつつあり、この 20 年間で老年人口（65 歳以上）が 2 倍近く増えたのに対し、年少人口（15 歳未満）は平成 12 年をピークに減少傾向となり、平成 27 年の年少人口は 15,141 人、全人口に占める割合は 16.3%と 20 年前から 3.6%減となっています。



人口の推移（国勢調査）

(2) 校区別人口の推移

本市の小学校区別に平成 17 年から平成 27 年までの 10 年間の人口の推移を見ると、最も増加率が高い富の原小学校区では 25.4%増加しているのに対し、減少率が最大の東大村小学校区では 13.5%減少しています。

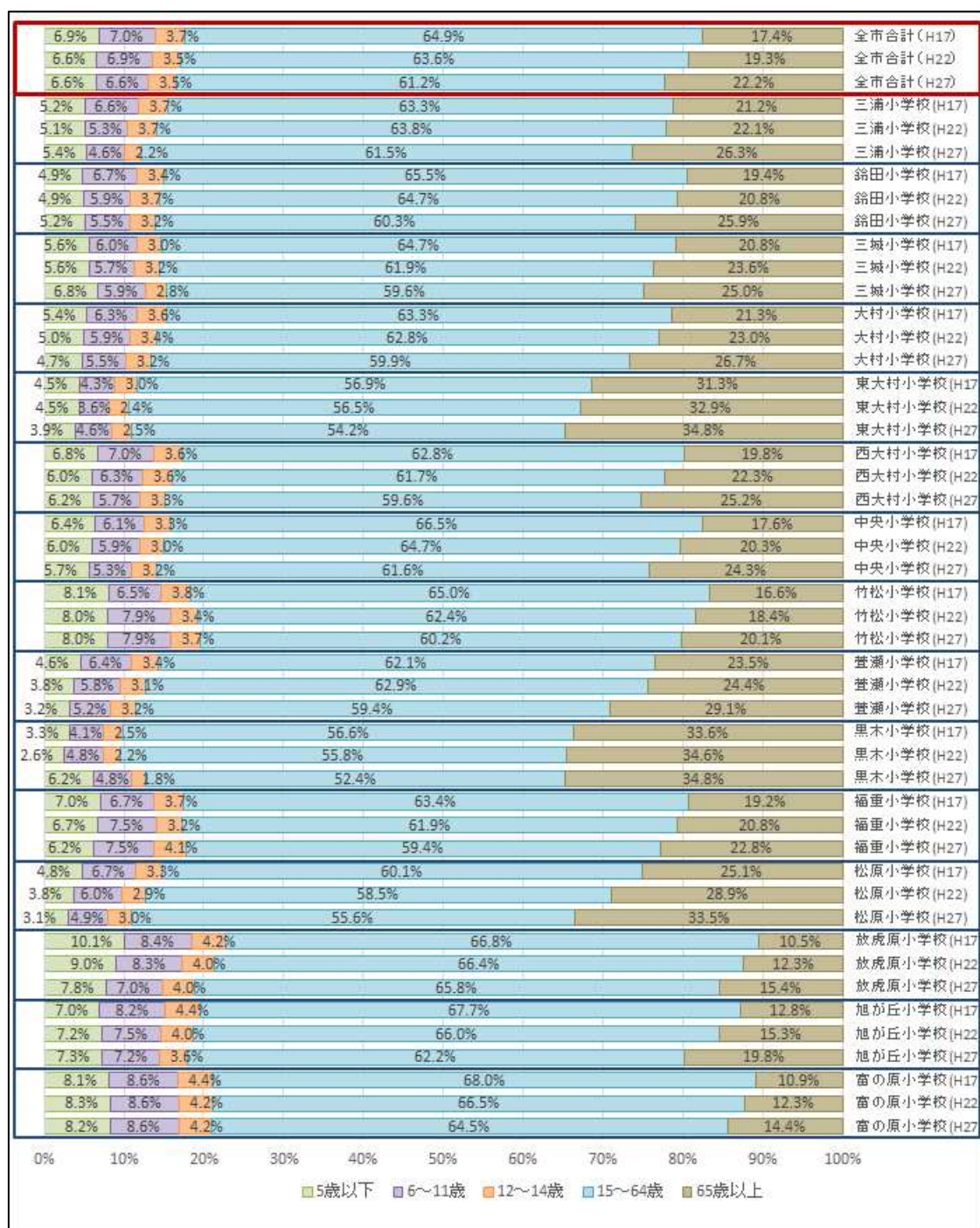
全般的に人口が多い校区は増加傾向、人口が少ない校区は減少傾向と格差が広がっており、住民の平均年齢が若い校区ほど増加傾向にあります。これは、比較的若い子育て世代が多く移り住む新興住宅地が多い地区において、その移住家族に更に子どもが増えるという社会増と自然増の相乗効果で人口増につながるというサイクルが考えられます。

小学校区別人口/平均年齢の推移

小学校区	小学校区別人口				小学校区別平均年齢		
	H17年	H22年	H27年	H27/H17	H17年	H22年	H27年
1 三浦小学校	2,758	2,846	2,878	104.4%	43.2	44.5	46.5
2 鈴田小学校	3,127	3,175	3,108	99.4%	42.1	43.8	45.9
3 三城小学校	8,232	8,239	9,021	109.6%	42.9	44.6	44.4
4 大村小学校	10,014	9,977	9,937	99.2%	42.8	44.3	46.1
5 東大村小学校	980	906	848	86.5%	48.8	50.7	51.0
6 西大村小学校	11,412	11,628	11,688	102.4%	41.3	43.0	44.4
7 中央小学校	7,835	7,764	7,567	96.6%	39.9	41.7	43.6
8 竹松小学校	10,868	11,395	11,983	110.3%	39.3	40.3	40.9
9 萱瀬小学校	1,872	1,851	1,730	92.4%	44.3	46.1	48.7
10 黒木小学校	244	231	227	93.0%	49.8	51.9	50.9
11 福重小学校	3,935	4,014	4,086	103.8%	41.0	42.5	43.5
12 松原小学校	2,491	2,380	2,218	89.0%	45.1	47.9	50.7
13 放虎原小学校	9,395	9,848	9,816	104.5%	34.8	36.4	38.9
14 旭が丘小学校	7,743	8,030	8,347	107.8%	37.7	39.6	41.2
15 富の原小学校	8,702	9,824	10,914	125.4%	35.1	36.2	37.3
合 計	89,608	92,108	94,368	105.3%	40.0	41.5	42.8

(住民基本台帳：各年 7/1 時点)

平成 17 年から平成 27 年までの 10 年間の、校区別年齢区分別人口の推移を見ると、いずれの校区も高齢化が進んでいますが、子どもの割合が若干増加している校区も存在します。全市合計の 15 歳未満人口の割合は、平成 17 年の 17.6%から平成 27 年には 16.7%と約 1%減少しています。特に、松原小学校区、放虎原小学校区、三浦小学校区、萱瀬小学校区の減少率が大きくなっています。



小学校区別・年齢区分別人口割合の推移

(住民基本台帳：各年 7/1 時点)

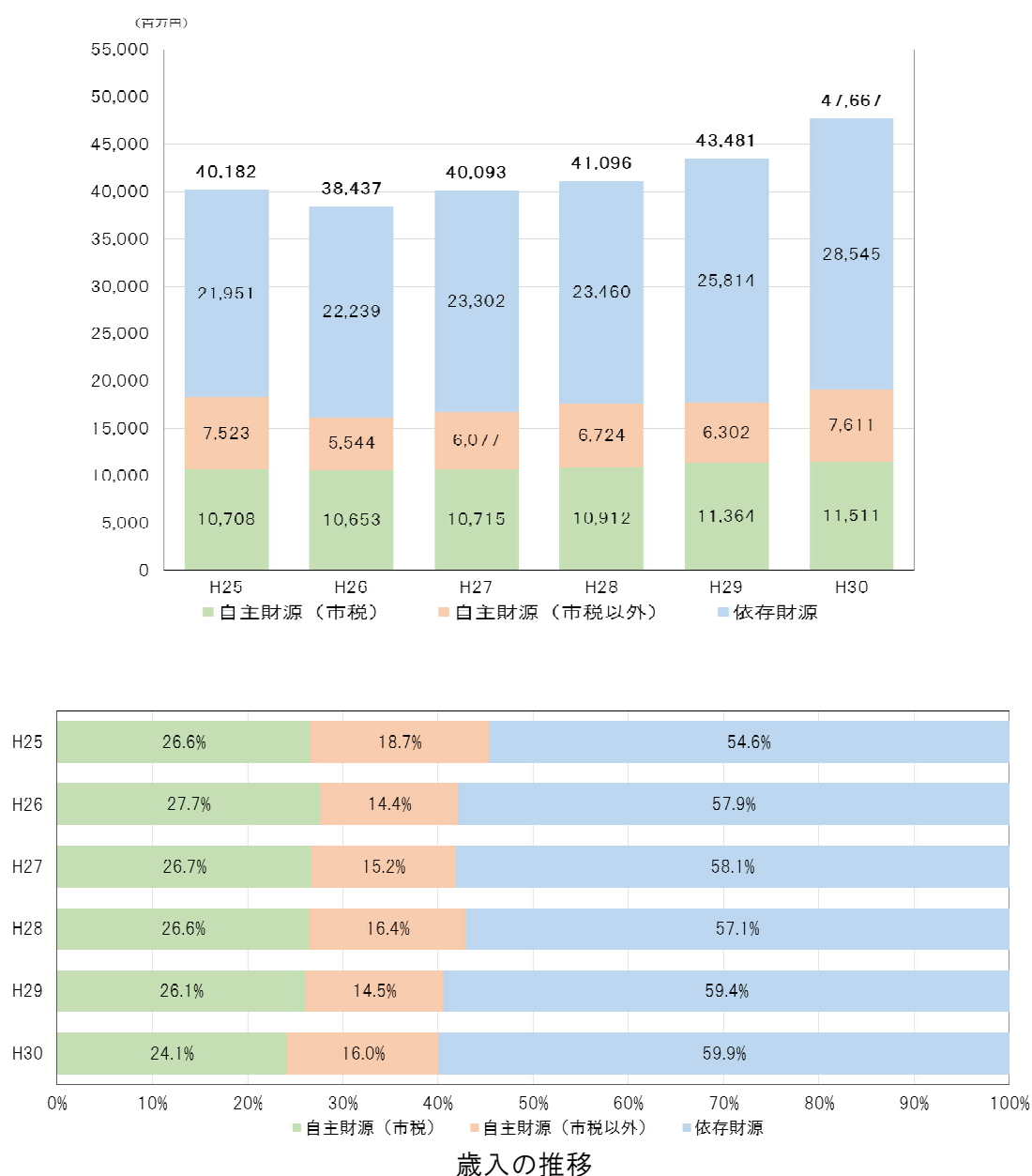
(3) 財政状況

① 歳入（一般会計）の状況

平成 30 年度決算の歳入額は約 476 億円であり、前年度と比較すると約 42 億円増加しています。

平成 25 年度以降の歳入の推移をみると、市税が約 110 億円余りに微増しておりますが、市税以外と合わせた自主財源の割合が 45%から 40%に減少し、依存財源が 55%から 60%に増加しています。

将来的に人口が減少する傾向になると、特に生産年齢人口の割合が減少すると見込まれるため、市税の減少が予想されます。



② 歳出（一般会計、性質別）の内訳

平成 30 年度決算の歳出額は約 460 億円であり、前年度と比較すると約 41 億円増加しています。

平成 25 年度以降の歳出の推移をみると、扶助費が年々増加しており、この 5 年間で約 32 億円増加しています。

今後も少子高齢化の更なる進展に伴い、社会保障費が増加していくことが予想され、財政上の大きな負担となることが考えられます。



歳出の推移

2 運営状況・活用状況の把握

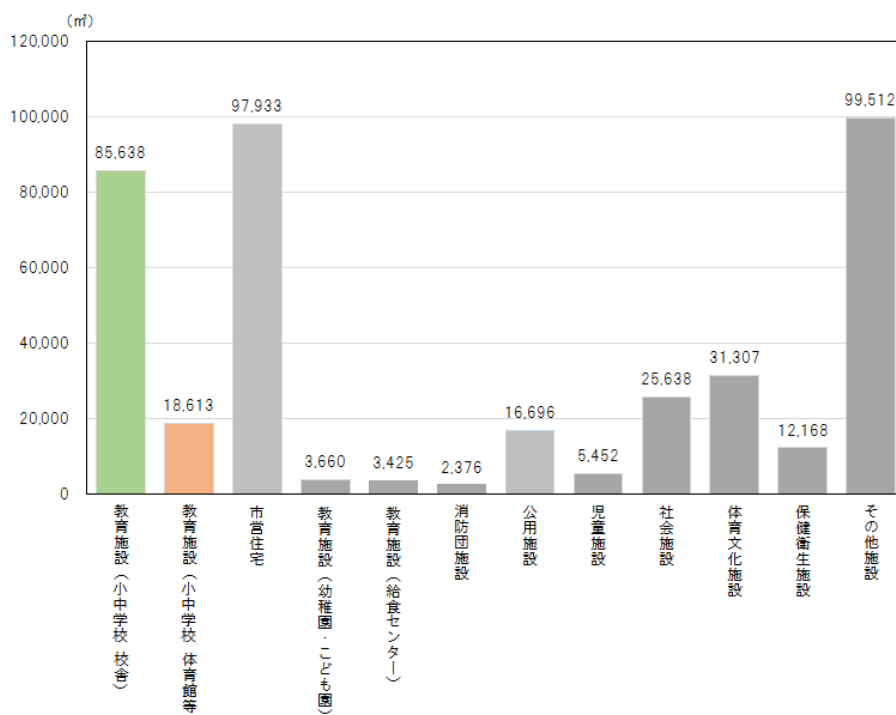
(1) 公共施設全体の保有状況

「大村市公共施設等総合管理計画」では、本市の建物系公共施設は全体で 203 施設、605 棟、延床面積 402,418 ㎡となります。

用途別合計の延床面積が多い順に市営住宅、その他施設と続き、3 番目に小中学校校舎の 85,638 ㎡(21.3%)となっています。小中学校校舎面積に小中学校体育館等の 18,613 ㎡(4.6%)を加えると割合が最も多くなり、全体の4分の1(25.9%)を占めることになります。

公共施設の用途別延床面積

施設分類	施設数	建物棟数	延床面積(㎡)	割合	
教育施設(小中学校 校舎)	21	252	85,638	21.3%	25.9%
教育施設(小中学校 体育館等)		26	18,613	4.6%	
市営住宅	27	101	97,933	24.3%	
教育施設(幼稚園・こども園)	6	12	3,660	0.9%	
教育施設(給食センター)	1	1	3,425	0.9%	
消防団施設	35	37	2,376	0.6%	
公用施設	11	34	16,696	4.1%	
児童施設	14	14	5,452	1.4%	
社会施設	18	26	25,638	6.4%	
体育文化施設	31	47	31,307	7.8%	
保健衛生施設	4	12	12,168	3.0%	
その他施設	35	43	99,512	24.7%	
合計	203	605	402,418	100.0%	



公共施設の用途別延床面積

(2) 学校施設の保有状況

本市の小学校 15 校、中学校 6 校の全 21 校の建物のうち、延床面積 200 ㎡未満の倉庫、部室等の小規模な建物を除いた一覧を下表に示します。

ほとんどの校舎建物と武道場が鉄筋コンクリート造（RC）、屋内運動場（体育館）は鉄骨造（S）であり、旧耐震基準の建物で耐震性能が基準以下の建物は全て耐震補強が完了しています。

学校名	建 物 名 称		棟番号	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		経過 年数	耐震 基準	耐震 診断	耐震 補強
三浦小	校舎①	管理・普通・特別教室棟, 普通教室棟,配膳室	006-1,006-2, 021	RC	2	1,226	1974	S49	48	旧	済	済
	校舎②	特別教室棟	007, 015	RC	1	441	1974	S49	48	旧	済	-
	屋内運動場		009-1,009-2	S	2	617	1975	S50	47	旧	済	済
鈴田小	校舎①	管理・普通・特別教室棟, 湯沸印刷室,トイレ,配膳室	010,020, 022,023	RC	2	1,665	1975	S50	47	旧	済	-
	屋内運動場		014	S	2	775	1983	S58	39	新		
	校舎②	特別教室棟	016	RC	2	393	1989	H元	33	新		
三城小	校舎①	管理・特別教室棟, 湯沸室	001-1,001-2, 015	RC	2	1,531	1958	S33	64	旧	済	済
	校舎②	特別教室棟	002	RC	2	1,351	1971	S46	51	旧	済	済
	屋内運動場		007-1,007-2	S	2	750	1973	S48	49	旧	済	済
	校舎③	特別教室棟	013	RC	2	574	1981	S56	41	旧	済	-
大村小	校舎①	特別支援教室棟	003	RC	2	602	1958	S33	64	旧	済	済
	屋内運動場		011	S	2	768	1971	S46	51	旧	済	済
	校舎②	普通・特別教室棟, 普通教室棟	017-1,017-2	RC	3	2,558	1973	S48	49	旧	済	済
	校舎③	管理・特別・普通教室棟	030	RC	2	1,546	2014	H26	8	新		
東大村小	校舎①	管理・普通・特別教室棟, 配膳室	008, 016	RC	3	1,359	1982	S57	40	新		
	屋内運動場		011	S	2	584	1983	S58	39	新		
西大村小	校舎①	普通教室棟	006, 011	RC	2	1,471	1970	S45	52	旧	済	-
	校舎②	管理・普通教室棟	013-1,013-2	RC	3	2,696	1972	S47	50	旧	済	済
	屋内運動場		014	S	2	782	1973	S48	49	旧	済	済
中央小	校舎①	普通教室棟,管理・特別教室棟, 特別教室棟	001-1,001-2, 016,017	RC	2	1,935	1959	S34	63	旧	済	済
	校舎②	普通教室棟, 配膳室	004-1,004-2, 021	RC	2	1,077	1960	S35	62	旧	済	済
	校舎③	特別教室棟	009	RC	2	577	1969	S44	53	旧	済	済
	校舎④	普通教室棟	012	RC	2	353	1972	S47	50	旧	済	済
	屋内運動場		013	S	2	896	1973	S48	49	旧	済	済
	校舎⑤	特別教室棟	019	RC	2	216	1976	S51	46	旧	済	-
竹松小	校舎①	管理・普通教室棟, 配膳室	015-1,015-2, 033	RC	3	2,525	1971	S46	51	旧	済	済
	校舎②	特別・普通教室棟	016	RC	3	2,488	1972	S47	50	旧	済	済
	屋内運動場		017	S	2	896	1973	S48	49	旧	済	済
	校舎③	特別・普通教室棟	032	RC	2	1,031	2011	H23	11	新		
	校舎④	通級棟,屋外トイレ	034-1,034-2, 038	RC	1	467	1957	S32	65	旧	済	-

学校名	建 物 名 称		棟番号	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		経過 年数	耐震 基準	耐震 診断	耐震 補強
萱瀨小	校舎①	特別・普通教室棟	001	RC	2	751	1970	S45	52	旧	済	済
	屋内運動場		008	S	2	608	1974	S49	48	旧	済	済
	校舎②	特別・管理室棟, 配膳室	010, 011	RC	2	841	1976	S51	46	旧	済	-
黒木小	屋内運動場	体育館,更衣室	011, 017,018	S	2	609	1984	S59	38	新		
	校舎①	普通・特別・管理棟	012	RC	3	924	1994	H6	28	新		
福重小	校舎①	管理・特別教室棟	001	RC	2	740	1967	S42	55	旧	済	-
	校舎②	普通教室棟	003	RC	2	722	1957	S32	65	旧	済	-
	屋内運動場		007	S	2	585	1972	S47	50	旧	済	済
	校舎③	普通教室棟	017	RC	2	409	1988	S63	34	新		
松原小	校舎①	管理・特別教室棟, 普通教室棟	006, 007	RC	3	2,791	1971	S46	51	旧	済	済
	屋内運動場		008	S	2	608	1973	S48	49	旧	済	済
放虎原小	校舎①	普通・特別教室棟	001	RC	2	1,764	1977	S52	45	旧	済	-
	校舎②	管理・普通・特別教室棟	005	RC	2	1,368	1978	S53	44	旧	済	-
	屋内運動場		007	S	2	775	1978	S53	44	旧	済	済
	校舎③	普通・特別教室棟	015	RC	3	613	1983	S58	39	新		
	校舎④	普通・特別教室棟	019	RC	3	760	1995	H7	27	新		
旭が丘小	校舎①	管理・普通・特別教室棟, 湯沸室	001, 012	RC	3	1,956	1980	S55	42	旧	済	済
	校舎②	普通・特別教室棟	004	RC	3	1,004	1981	S56	41	新		
	屋内運動場		006	S	2	775	1982	S57	40	新		
	校舎③	普通・特別教室棟	010	RC	3	625	1990	H2	32	新		
富の原小	校舎①	管理・普通・特別教室棟, 湯沸室	001, 023	RC	3	2,916	1982	S57	40	新		
	屋内運動場		005	S	2	775	1983	S58	39	新		
	校舎②	普通・特別教室棟	014	RC	3	642	1991	H3	31	新		
	校舎③	普通教室棟	021	RC	2	922	2009	H21	13	新		
玖島中	屋内運動場	体育館,体育館倉庫	007, 027	S	2	1,132	1968	S43	54	旧	済	済
	校舎①	教室学習棟	022, 024	RC	3	2,648	2003	H15	19	新		
	校舎②	芸術科学棟	023, 026	RC	3	2,647	2003	H15	19	新		
	校舎③	管理棟	025	RC	2	1,346	2003	H15	19	新		
	武道場		030	RC	1	450	2010	H22	12	新		
西大村中	校舎①	管理・特別教室棟, 湯沸室	001-1,001-2, 017	RC	2	1,320	1962	S37	60	旧	済	-
	校舎②	特別教室棟	002-1,002-2	RC	2	1,468	1961	S36	61	旧	済	済
	校舎③	普通教室棟	003-1,003-2	RC	2	1,468	1960	S35	62	旧	済	済
	校舎④	特別教室棟,部室	004, 028	S	1	256	1963	S38	59	旧	済	-
	屋内運動場	体育館,体育倉庫	011-1,011-2	S	2	922	1964	S39	58	旧	済	済
	校舎⑤	特別教室棟	016	RC	2	1,507	1975	S50	47	旧	済	-
	武道場		022	RC	1	450	1999	H11	23	新		

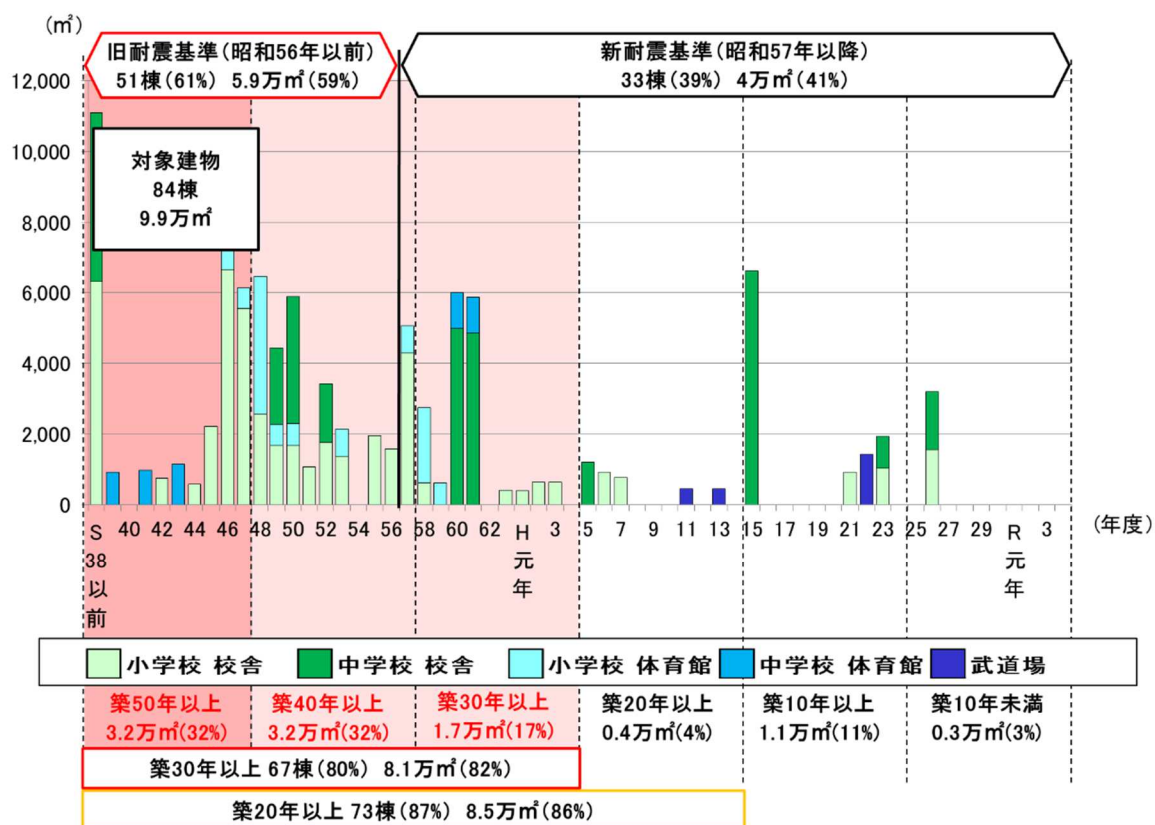
学校名	建 物 名 称		棟番号	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		経過 年数	耐震 基準	耐震 診断	耐震 補強
萱瀬中	屋内運動場		009	S	2	656	1971	S46	51	旧	済	済
	校舎①	管理・特別教室棟	014	RC	2	734	1977	S52	45	旧	済	済
	校舎②	普通・特別教室棟	015	RC	3	910	1977	S52	45	旧	済	済
郡中	校舎①	特別教室棟	009	S	1	239	1962	S37	60	旧	済	-
	屋内運動場	体育館,体育倉庫	013, 029	S	2	969	1966	S41	56	旧	済	済
	校舎②	特別・普通教室棟	017	RC	3	2,158	1974	S49	48	旧	済	済
	校舎③	特別・普通教室棟	018, 019	RC	3	2,098	1975	S50	47	旧	済	済
	武道場		037	RC	1	450	2001	H13	21	新		
	校舎④	管理・特別教室棟	038	RC	2	1,651	2014	H26	8	新		
大村中	校舎①	管理・普通・特別教室棟	001	RC	4	4,986	1985	S60	37	新		
	屋内運動場		002	S	2	1,011	1985	S60	37	新		
	校舎②	特別教室棟	012	RC	3	596	1993	H5	29	新		
	武道場		016	RC	2	516	2010	H22	12	新		
桜が原中	校舎①	管理・普通・特別教室棟	001	RC	3	4,845	1986	S61	36	新		
	屋内運動場		002	S	2	1,011	1986	S61	36	新		
	校舎②	普通・特別教室棟	010	RC	3	593	1993	H5	29	新		
	武道場		013	RC	1	450	2010	H22	12	新		
	校舎③	普通・特別教室棟	014	RC	2	905	2011	H23	11	新		

合計 99,025

※経過年数は基準年（令和４年）における年数となります。

学校施設の築年別整備状況を見ると、旧耐震基準（昭和56年以前）によるものが51棟、床面積で約5.9万㎡、新耐震基準（昭和57年以降）によるものが33棟、床面積で4万㎡となっており、旧耐震基準の建物が6割を占めています。

また、昭和45～61年にかけて集中的に整備されており、基準年（令和4年）で築30年以上の建物が67棟、床面積で8.1万㎡と、実に8割を占めています。



※作図のプログラムにより、面積は万㎡、比率は整数となっています。

築年別整備状況

(3)児童生徒数及び学級数の変化

平成 24 年度以降、市内の小学校 15 校の全児童数は減少傾向にあったものの、H28 年度から若干上昇に転じて令和元年度は 6,261 人となっています。平成 22 年度と比較すると 0.6%減少しています。

児童数の変化の傾向は学校ごとに異なり、この 9 年間で松原小、放虎原小では約 2 割減少しており、三城小は約 3 割増加しています。

小学校の児童数の推移

小学校児童数

年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R1/H22 比率
三浦小	150	143	143	133	127	133	136	149	147	159	106.0%
鈴田小	194	198	196	191	173	177	172	160	174	174	89.7%
三城小	462	467	470	487	500	520	557	565	590	601	130.1%
大村小	576	594	584	580	556	541	544	568	555	582	101.0%
東大村小	33	34	33	37	34	38	43	39	37	30	90.9%
西大村小	730	730	709	693	689	676	688	696	684	679	93.0%
中央小	446	455	447	438	421	380	374	358	352	368	82.5%
竹松小	884	916	926	944	969	959	916	935	940	934	105.7%
萱瀬小	105	100	100	91	88	84	80	83	80	74	70.5%
黒木小	18	14	16	19	22	23	21	25	22	22	122.2%
福重小	300	302	313	303	307	294	304	297	299	297	99.0%
松原小	141	132	125	118	118	106	104	105	119	114	80.9%
放虎原小	823	791	758	725	699	692	705	683	688	678	82.4%
旭が丘小	595	579	559	553	557	591	590	591	604	628	105.5%
富の原小	844	862	882	863	896	927	910	926	912	921	109.1%
合計	6,301	6,317	6,261	6,175	6,156	6,141	6,144	6,180	6,203	6,261	99.4%

各年度 5 月 1 日現在の数



全児童数の推移

児童数の減少に反して学級総数は増加していますが、これはこの9年間で17クラス増加した特別支援学級の影響であり、通常学級の数には減少しています。

竹松小、富の原小では児童数900人、学級数30クラス超の過大規模校レベルである一方、黒木小、東大村小では児童数が2桁台の前半であり、学級数も3クラスと複式学級を編成する必要がある過小規模校となっています。

小学校の学級数の推移

学級数（特別支援学級を含む）

年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R1/H22 増減数
三浦小	7	6	6	6	6	6	6	7	6	6	-1
鈴田小	7	8	9	10	7	7	8	8	8	8	1
三城小	17	16	17	18	18	18	20	21	22	21	4
大村小	20	21	21	22	21	21	21	22	21	24	4
東大村小	4	3	4	4	4	4	4	4	4	3	-1
西大村小	25	25	24	24	23	23	25	26	25	24	-1
中央小	16	15	16	16	15	13	15	14	14	15	-1
竹松小	31	31	30	32	32	31	30	30	30	33	2
萱瀬小	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	0
黒木小	3	3	3	3	3	3	3	4	3	3	0
福重小	11	11	12	12	12	12	12	13	14	14	3
松原小	6	6	6	6	7	7	7	7	7	8	2
放虎原小	27	26	25	25	25	24	24	23	23	23	-4
旭が丘小	21	19	20	20	20	22	23	22	23	24	3
富の原小	28	27	28	27	30	30	30	31	30	30	2
合計	230	224	228	232	230	228	235	239	237	243	13

特別支援学級数

年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R1/H22 増減数
三浦小											0
鈴田小				1	1	1	1	2	1	1	1
三城小	1	1	1	1	1	1	1	3	3	2	1
大村小	2	2	3	3	3	3	3	3	4	5	3
東大村小											0
西大村小	2	2	3	3	2	2	3	4	3	3	1
中央小	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1
竹松小	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	1
萱瀬小	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
黒木小											0
福重小								1	2	2	2
松原小					1	1	1	1	1	2	2
放虎原小	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0
旭が丘小	1	1	1	1	1	2	3	3	4	5	4
富の原小	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1
合計	14	14	16	17	18	19	21	27	28	31	17

各年度5月1日現在の数

	過小規模校	小規模校	適正規模校	大規模校	過大規模校
小学校	5学級以下	6～11学級	12～18学級	19～30学級	31学級以上
中学校	2学級以下	3～11学級			

資料：学校教育法施行規則

平成 24 年度以降、市内の中学校 6 校の全生徒数は減少傾向となっており、平成 29 年度は 2,976 人と初めて 3,000 人を切り、令和元年度は 2,931 人となっています。平成 22 年度と比較すると約 7% 減少しています。

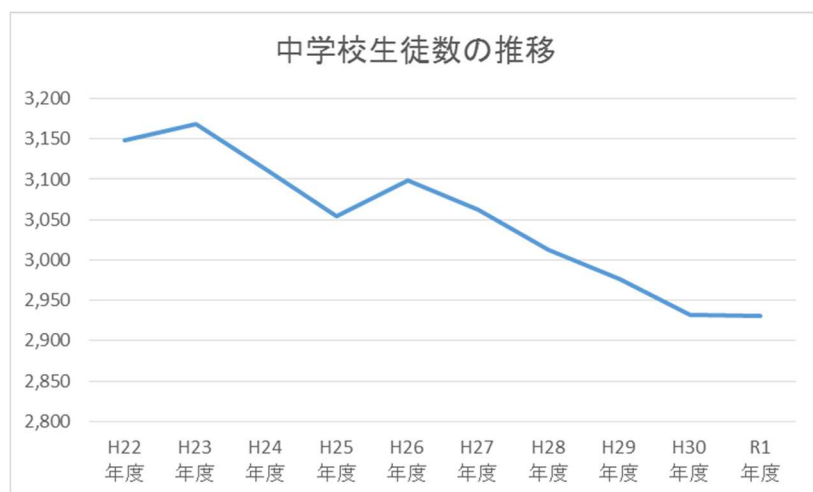
学校ごとの生徒数は、郡中が約 2 割増加していますが、その他の学校は減少しており、特に玖島中ではこの 9 年間で約 24% 減少しています。

中学校の生徒数の推移

中学校生徒数

年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R1/H22 比率
玖島中	534	516	481	445	463	438	421	400	394	408	76.4%
西大村中	643	607	607	597	605	587	572	560	533	517	80.4%
萱瀬中	66	72	63	62	60	63	58	55	52	53	80.3%
郡中	556	599	605	624	628	653	682	693	668	667	120.0%
大村中	567	581	570	556	560	541	519	522	531	551	97.2%
桜が原中	782	794	786	770	782	780	760	746	754	735	94.0%
合計	3,148	3,169	3,112	3,054	3,098	3,062	3,012	2,976	2,932	2,931	93.1%

各年度 5 月 1 日現在の数



全生徒数の推移

全生徒数の減少に比例して学級総数も減少しています。特に西大村中が4クラス減少となっています。

萱瀬中が4クラスの小規模校であり、郡中、桜が原中の2校が大規模校、その他の3校が適正規模校の分類に位置付けられます。

中学校の学級数の推移

学級数(特別支援学級を含む)

年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R1/H22 増減数
玖島中	17	17	16	15	15	14	15	14	13	15	-2
西大村中	21	20	19	20	20	20	18	18	17	17	-4
萱瀬中	4	4	4	3	3	3	3	4	4	4	0
郡中	18	19	19	20	20	21	21	21	20	20	2
大村中	17	17	18	17	18	16	16	18	18	18	1
桜が原中	23	25	24	24	24	24	23	23	23	22	-1
合計	100	102	100	99	100	98	96	98	95	96	-4

特別支援学級数

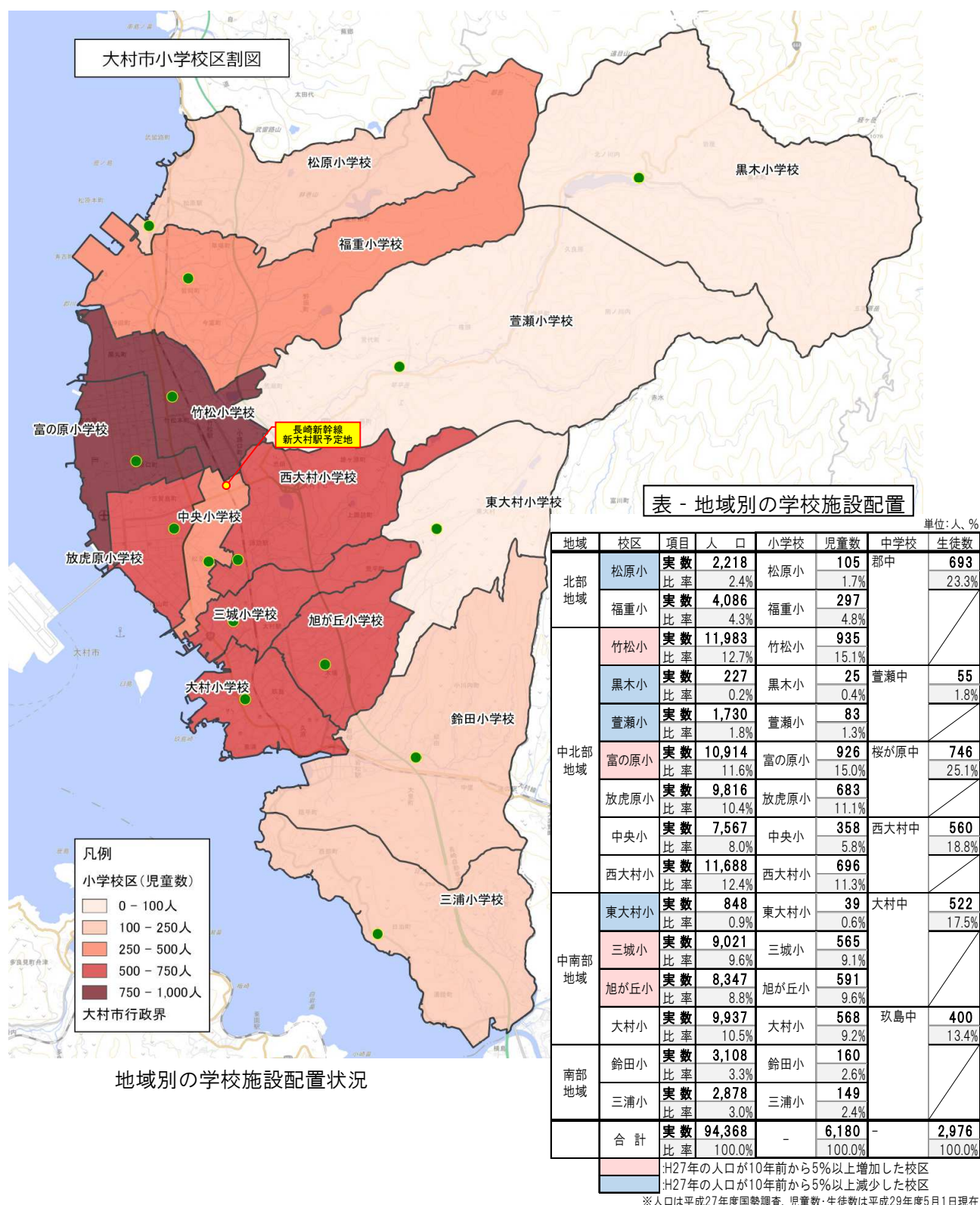
年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R1/H22 増減数
玖島中	2	2	2	2	2	1	2	2	2	3	1
西大村中	3	3	2	3	3	4	2	2	2	2	-1
萱瀬中	1	1	1					1	1	1	0
郡中	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0
大村中	1	1	1	1	2	1	1	2	2	2	1
桜が原中	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1	0
合計	10	11	10	10	11	10	9	11	11	11	1

各年度5月1日現在の数

	過小規模校	小規模校	適正規模校	大規模校	過大規模校
小学校	5学級以下	6～11学級	12～18学級	19～30学級	31学級以上
中学校	2学級以下	3～11学級			

資料：学校教育法施行規則

本市の人口は市域中西部の都市部への集中が加速しており、一方で北部、東部、南部では減少傾向となっています。その影響が小中学校の児童生徒数の変動に直結している状況です。



効率的で持続可能な都市づくりを進めるために、平成 29 年 3 月に策定された大村市立地適正化計画において、市域中西部に設定している居住誘導地域では、区域内の人口密度を 20 年後も維持することを目標としています。

また、都市機能誘導区域として設定している都市拠点（2 箇所）、地域拠点（2 箇所）を中心として更なる都市化の発展が予想され、その区域を含む学校区と、中山間部の学校区での児童生徒数の差が更に広がる事が考えられます。

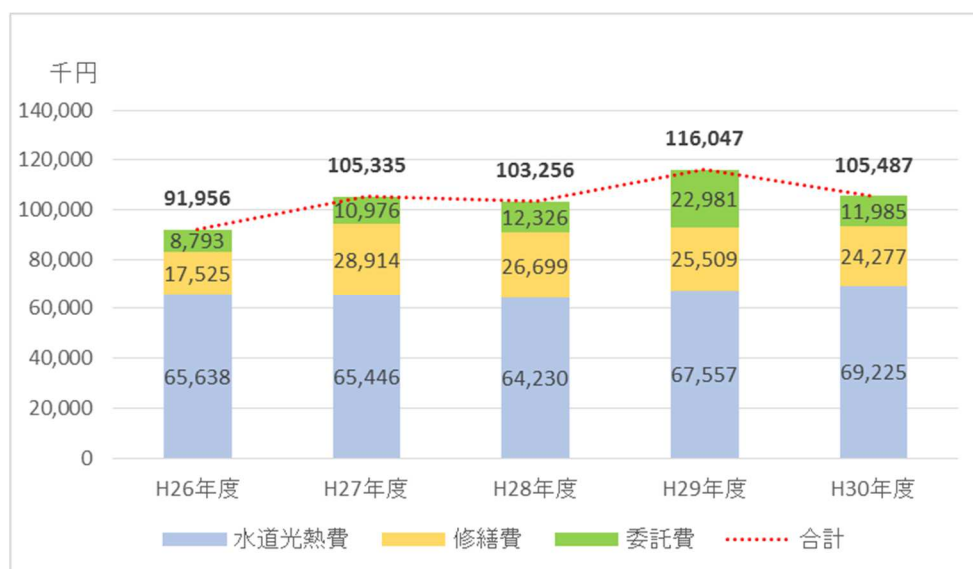


立地適正化誘導区域

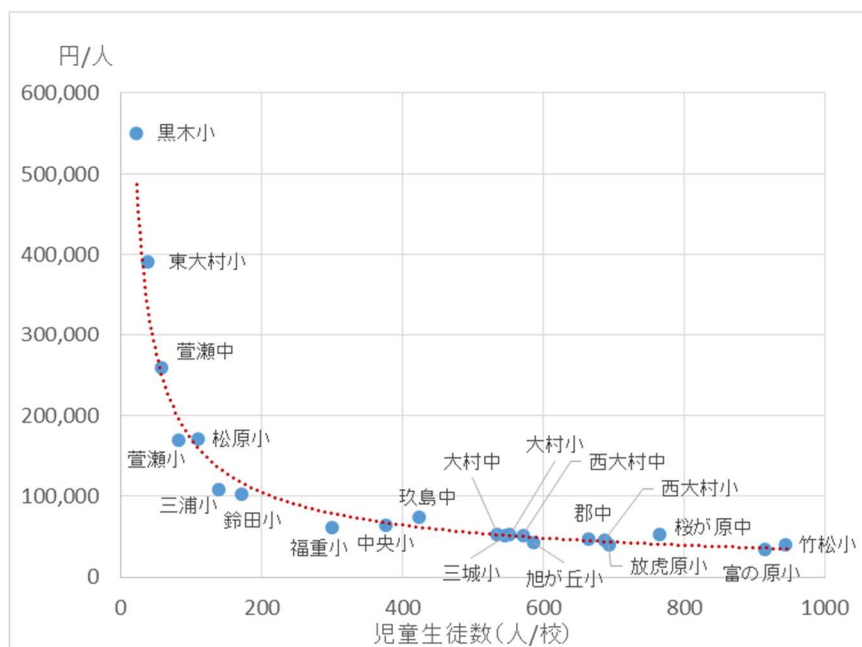
(4)学校の維持管理コスト

全小中学校の維持管理コスト（光熱水費、修繕費、委託費）に関する平成 26 年度からの 5 年間の推移を見ると、若干の変動はあるものの、年間 1 億円前後で推移しています。その内訳は、水道光熱費が 6～7 割、修繕費が 2～3 割程度の割合となっています。

また、維持管理費を児童生徒数で割った 1 人当たりの費用と児童生徒数の関係を見ると、児童生徒数が少なくなるほど、1 人当たりの維持管理費が高額になることがわかります。



維持管理費の推移



児童生徒一人あたりの維持管理費（過去 5 年の平均）

(5)学校施設の実態を踏まえた課題

本市の学校施設の建物は、昭和 40 年代から 60 年代に建築された建物が多く、昭和 30 年代に建築された建物もあります。建物の多くは鉄筋コンクリート造(RC 造)で建てられ、耐震診断の結果に基づいて耐震補強・大規模改修工事を実施してきました。しかしながら、建築から長い年数が経過して建物の老朽化が進んでいるとともに設備の不具合もあり、近い将来に建替を含めた対策が必要となっています。

また、現在は未だ人口増加が続いているものの近い将来には人口減少が始まり、同時に少子化の進展による児童生徒数の減少が見込まれます。その一方で、まだまだ児童生徒数の増加が予想される学校もあり、学校規模の格差の拡大が進んでいくことが考えられます。

さらに、教育内容や教育方法等の多様化、防災機能整備、バリアフリー化、環境への配慮など学校施設に求められる時代のニーズに対応するための対策が課題となっています。

① 厳しい財政状況を勘案した学校施設の長期保全への取り組み

平成 30 年度の一般会計の決算における自主財源の割合は、歳入総額の 40%となっており、将来的な人口減少に伴い、市税も減少することが予想されます。一方、歳出においては、扶助費が増加する傾向を踏まえると、財政状況がますます厳しくなっていくことになります。

本市の建築系公共施設は、203 施設、総延床面積 402,418 m²を保有している中で、小中学校を合わせた教育施設の延床面積は全体の約 4 分の 1 を占めています。これらの教育施設は、近い将来に改築や大規模改修を行う必要があり、市の財政に大きな負担となることが考えられます。

このため、学校施設の中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図りつつ、長期的な予算配分を確立していくことが必要です。

② 学校施設の維持・改修など総合的な対応

学校施設の80%が築30年以上と老朽化が進んでいる中で、建設当時に比べ大きく変化している多様な学習内容に対応した高機能かつ多機能な施設環境の必要性が高まっています。また防災対策、バリアフリー対策、トイレの洋式化等の学習・生活空間としての安全性や快適性の向上を図るほか、環境負荷の低減対策等の様々な配慮が必要となっています。

施設の改修に当たっては、建築時の状態に戻すのではなく、その機能や性能を現在の学校が求められている水準まで引き上げる必要があります。その際には、安全・安心な施設環境の確保、教育環境の質的向上、地域コミュニティの拠点形成を目指して再生を行うことが重要です。

③ 小中学校規模・配置の適正化の検討

本市の人口の増加傾向は今後も一定期間は継続することが予想されます。しかしながら、それぞれの学校における児童生徒数に大きな差が生じている傾向が今後も続くことが予想されます。このため、将来を見据えた小中学校の規模や配置の適正化が課題となっています。

すが、その検討にあたっては、児童生徒にとって望ましい教育環境はどうあるべきかという観点に立ち、保護者や地域住民等の理解や協力を得ながら進めていく必要があります。

3 学校施設の老朽化状況

(1) 学校施設の老朽化状況の把握

① 老朽化状況の評価

施設の健全性・劣化状況を把握し評価するために、学校施設台帳、耐震診断結果を踏まえ、さらに屋上・外壁・内部仕上げ等の実態を把握するため、学校施設 21 校の主要建物 84 棟を対象にした目視による現地調査を行いました。

下に示す建物調査票を基に、各項目についての劣化度（A～Dの4段階評価）の判定とともに写真を撮影し、「屋根・屋上」、「外壁」、「内部仕上」に区分して劣化状況の評価を行いました。また、「電気設備」と「機械設備」も経過年数により評価を行い、それらをもとに総合的に施設の健全度としての点数化を行いました。

屋根・外壁

学校名	棟番号	構造種別	RC造 S造 木造 その他（ ）				延床面積	m
			地上	階	地下	階		
対象箇所	仕 様 (該当する項目にチェック)	項 目	内 容	箇所	評 価			
					A 概ね良好	B 部分的に劣化	C 広範囲に劣化	D 早急な対応が必要
屋根・屋上	☐ アスファルト保護防水 ☐ アスファルト露出防水 ☐ シート防水、塗膜防水 ☐ 勾配屋根(長尺金属板、折板) ☐ 勾配屋根(スレート、瓦類) ☐ その他の屋根()	屋上・屋根の劣化状況	防水層に膨れ・破れ等がある					
			屋根葺材に錆・損傷がある					
			笠木・立上り等に損傷がある					
		屋上金物の劣化状況	樋やルーフドレンに損傷がある					
			錆・腐食・変形がある					
外壁	☐ 塗仕上げ ☐ タイル張り、石張り ☐ 金属系パネル ☐ コンクリート系パネル(ALC等) ☐ その他の外壁() ☐ アルミ製サッシ ☐ 鋼製サッシ ☐ 断熱サッシ、省エネガラス	外壁の劣化状況	鉄筋が見えている					
			大きな亀裂がある					
			塗装やタイルがはがれている					
		軒(バルコニー)の劣化状況	鉄筋が見えている					
			大きな亀裂がある					
			錆・腐食・変形がある					
		外部建具の劣化状況	ドア・扉	錆・腐食・変形がある				
			窓	錆・腐食・変形がある				
			その他					
		外部階段	錆・腐食・変形がある					
設備項目	内 容 場 所							
生活環境	トイレのドライ化	□1階 □2階 □3階 □4階 □その他()						
	木質化							
省エネ化	太陽光発電							
	屋上緑化							
バリアフリー	エレベーター							
	多目的トイレ							
	点字ブロック							
	手すり	□階段() □1階廊下 □2階廊下 □3階廊下 □4階廊下 □その他()						
	スロープ							

建物調査票

内部仕上げ

対象箇所	項 目	評 価				備 考
		A 概ね良好	B 部分的に劣化	C 広範囲に劣化	D 早急な対応が必要	
内部仕上げ ただし 供用部対象	1 階	内部床の劣化状況				
		内部壁の劣化状況				
		内部天井の劣化状況				
		内部建具の劣化状況	ドア・扉			
			窓			
			照明器具			
			その他			
		内部階段				
		トイレ				
	2 階	内部床の劣化状況				
		内部壁の劣化状況				
		内部天井の劣化状況				
		内部建具の劣化状況	ドア・扉			
			窓			
			照明器具			
			その他			
		内部階段				
		トイレ				
	3 階	内部床の劣化状況				
		内部壁の劣化状況				
		内部天井の劣化状況				
		内部建具の劣化状況	ドア・扉			
			窓			
			照明器具			
			その他			
		内部階段				
		トイレ				
	4 階	内部床の劣化状況				
		内部壁の劣化状況				
		内部天井の劣化状況				
		内部建具の劣化状況	ドア・扉			
			窓			
			照明器具			
			その他			
		内部階段				
		トイレ				

目視による評価（屋根・屋上，外壁，内部仕上）

良好  劣化	評価	基準	良好  劣化
	A	おおむね良好	
	B	部分的に劣化 (安全上・機能上：問題なし)	
	C	広範囲に劣化 (安全上・機能上：不具合発生の兆し)	
	D	早急に対応する必要がある	

経過年数による評価（電気設備，機械設備）

評価	基準
A	20年未満
B	20～40年
C	40年以上
D	経過年数に関わらず 著しい劣化事象がある

評価指標

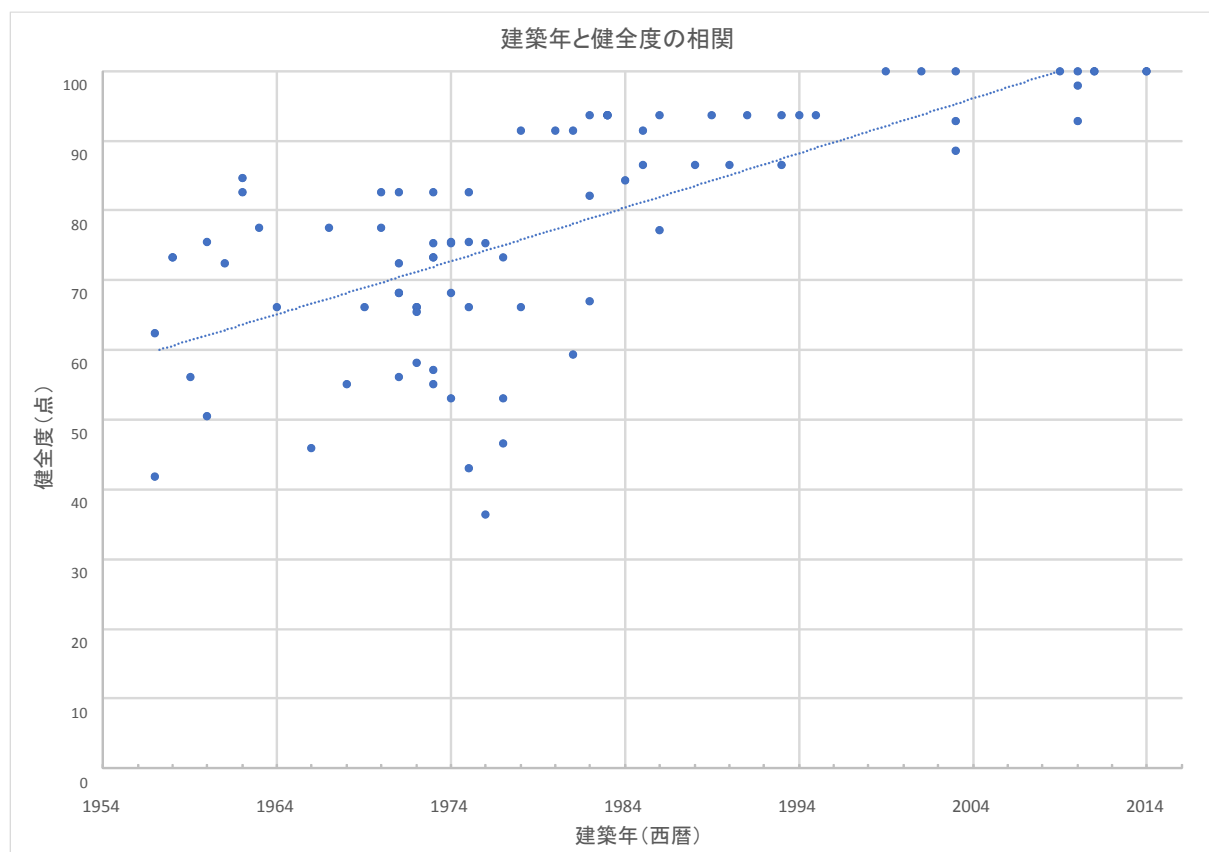
② 老朽化状況の実態

現地の目視調査を踏まえた劣化状況の評価による建物の健全度についての評価結果を次頁以降に示します。

小学校の対象建物全 54 棟の健全度の平均値が 75.8 点、健全度 50 点未満の建物が 2 棟であり、中学校では、全 30 棟の健全度の平均値が 80.7 点、健全度 50 点未満の建物は 3 棟となっています。

耐震改修工事及び大規模改修工事を近年に行っている建物が多く、全体的には良好な状態である建物が多い状況です。

建築年との関係では、1983 年（昭和 58 年）以降の建物は健全度が 70 点以上を保っていますが、それ以前の建築になると健全度が低い建物が急激に増えています。



建築年と健全度の相関

建物情報一覧表

基準 2022

：築50年以上

：築30年以上

A : 概ね良好

C : 広範囲に劣化

B : 部分的に劣化

D : 早急に対応する必要がある

建物基本情報													構造躯体の健全性						劣化状況評価							備考
通し 番号	学校調 査番号	施設名	建物名	棟番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定			屋根・ 屋上	外 壁	内 部仕 上	電 気設 備	機 械設 備	健全度 (100点 満点)		
					学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査 年度	圧縮強 度(N/㎡)	試算上 の区分								
1	0129	三浦小学校	校舎①(普通教室棟・管理・普通・特別教室棟・配膳室)	006-1.006-2.021	小学校	校舎	RC	2	1,226	1974	S49	48	旧	済	済	H8			A	B	B	C	C	68	H10年:大規模改修、耐震補強	
2	0129	三浦小学校	校舎②(特別教室棟)	007.015	小学校	校舎	RC	1	441	1974	S49	48	旧	済	-	H8			A	A	B	C	C	75	H10年:大規模改修	
3	0129	三浦小学校	屋内運動場	009-1.009-2	小学校	体育館	S	2	617	1975	S50	47	旧	済	済	H21			B	B	B	C	C	66	H23年:耐震補強	
4	0130	鈴田小学校	校舎①(管理・普通・特別教室棟・湯沸印刷室・トイレ・配膳室)	010.020.022.023	小学校	校舎	RC	2	1,665	1975	S50	47	旧	済	-	H21	22.5	長寿命	B	A	A	C	C	83	H7年:大規模改修	
5	0130	鈴田小学校	屋内運動場	014	小学校	体育館	S	2	775	1983	S58	39	新						A	A	A	B	B	94		
6	0130	鈴田小学校	校舎②(特別教室棟)	016	小学校	校舎	RC	2	393	1989	H元	33	新						A	A	A	B	B	94		
7	0131	三城小学校	校舎①(管理・特別教室棟・湯沸室)	001-1.001-2.015	小学校	校舎	RC	2	1,531	1958	S33	64	旧	済	済	H20	16.8	長寿命	B	A	B	C	C	73	H4年:大規模改修 H24年:耐震補強	
8	0131	三城小学校	校舎②(特別教室棟)	002	小学校	校舎	RC	2	1,351	1971	S46	51	旧	済	済	H20	14.6	長寿命	B	A	A	C	C	83	H4年:大規模改修 H24年:耐震補強	
9	0131	三城小学校	屋内運動場	007-1.007-2	小学校	体育館	S	2	750	1973	S48	49	旧	済	済	H21			B	A	B	C	C	73	H23年:耐震補強	
10	0131	三城小学校	校舎③(特別教室棟)	013	小学校	校舎	RC	2	574	1981	S56	41	旧	済	-	H21	21	長寿命	D	C	B	B	B	59		
11	0132	大村小学校	校舎①(特別支援教室棟)	003	小学校	校舎	RC	2	602	1958	S33	64	旧	済	済	H20	13.9	長寿命	B	A	B	C	C	73	H22年:耐震補強	
12	0132	大村小学校	屋内運動場	011	小学校	体育館	S	2	768	1971	S46	51	旧	済	済	H21			A	B	B	C	C	68	H23年:耐震補強	
13	0132	大村小学校	校舎②(普通・特別教室棟・普通教室棟)	017-1.017-2	小学校	校舎	RC	3	2,558	1973	S48	49	旧	済	済	H10			C	A	C	C	C	57	H2年:大規模改修 H10年:耐震補強	
14	0132	大村小学校	校舎③(管理・特別・普通教室棟)	030	小学校	校舎	RC	2	1,546	2014	H26	8	新						A	A	A	A	A	100		
15	0134	東大村小学校	校舎①(管理・普通・特別教室棟・配膳室)	008.016	小学校	校舎	RC	3	1,359	1982	S57	40	新						A	A	A	B	B	94		
16	0134	東大村小学校	屋内運動場	011	小学校	体育館	S	2	584	1983	S58	39	新						A	A	A	B	B	94		
17	0135	西大村小学校	校舎①(普通教室棟)	006.011	小学校	校舎	RC	2	1,471	1970	S45	52	旧	済	-	H19	18.6	長寿命	A	B	A	C	C	78	H7年:大規模改修	
18	0135	西大村小学校	校舎②(管理・普通教室棟)	013-1.013-2	小学校	校舎	RC	3	2,696	1972	S47	50	旧	済	済	H19	19.1	長寿命	B	B	B	C	C	66	H21年:耐震補強	
19	0135	西大村小学校	屋内運動場	014	小学校	体育館	S	2	782	1973	S48	49	旧	済	済	H19			A	A	B	C	C	75	H21年:耐震補強	
20	0136	中央小学校	校舎①(普通教室棟・管理・特別教室棟・特別教室棟)	001-1.001-2.016.017	小学校	校舎	RC	2	1,935	1959	S34	63	旧	済	済	H19	10.6	要調査	B	C	B	C	C	56	S63年:大規模改修 H21年:耐震補強	
21	0136	中央小学校	校舎②(普通教室棟・配膳室)	004-1.004-2.021	小学校	校舎	RC	2	1,077	1960	S35	62	旧	済	済	H19	10.2	要調査	D	C	B	C	C	51	S63年:大規模改修 H21年:耐震補強	
22	0136	中央小学校	校舎③(特別教室棟)	009	小学校	校舎	RC	2	577	1969	S44	53	旧	済	済	H19	20	長寿命	B	B	B	C	C	66	S63年:大規模改修 H21年:耐震補強	
23	0136	中央小学校	校舎④(普通教室棟)	012	小学校	校舎	RC	2	353	1972	S47	50	旧	済	済	H19	18	長寿命	B	B	B	C	C	66	S63年:大規模改修 H21年:耐震補強	
24	0136	中央小学校	屋内運動場	013	小学校	体育館	S	2	896	1973	S48	49	旧	済	済	H19			A	B	C	C	C	55	H21年:耐震補強	
25	0136	中央小学校	校舎⑤(特別教室棟)	019	小学校	校舎	RC	2	216	1976	S51	46	旧	済	-	H19	18	長寿命	A	D	C	C	C	37		
26	0137	竹松小学校	校舎①(管理・普通教室棟・配膳室)	015-1.015-2.033	小学校	校舎	RC	3	2,525	1971	S46	51	旧	済	済	H20	18	長寿命	C	B	A	C	C	72	H6年:大規模改修 H24年:耐震補強	
27	0137	竹松小学校	校舎②(特別・普通教室棟)	016	小学校	校舎	RC	3	2,488	1972	S47	50	旧	済	済	H20	18	長寿命	B	C	A	C	C	65	H7年:大規模改修 H24年:耐震補強	
28	0137	竹松小学校	屋内運動場	017	小学校	体育館	S	2	896	1973	S48	49	旧	済	済	H21			B	A	B	C	C	73	H7年:大規模改修 H23年:耐震補強	
29	0137	竹松小学校	校舎③(特別・普通教室棟)	032	小学校	校舎	RC	2	1,031	2011	H23	11	新						A	A	A	A	A	100		
30	0137	竹松小学校	校舎④(通級棟・屋外トイレ)	034-1.034-2.038	小学校	校舎	RC	1	467	1957	S32	65	旧	済	-	H20			B	B	D	C	C	42		
31	0138	萱瀬小学校	校舎①(特別・普通教室棟)	001	小学校	校舎	RC	2	751	1970	S45	52	旧	済	済	H7			B	A	A	C	C	83	H8年:耐震補強、大規模改修	
32	0138	萱瀬小学校	屋内運動場	008	小学校	体育館	S	2	608	1974	S49	48	旧	済	済	H21			B	B	A	C	C	75	H23年:耐震補強	
33	0138	萱瀬小学校	校舎②(特別・管理室棟・配膳室)	010.011	小学校	校舎	RC	2	841	1976	S51	46	旧	済	-	H7			A	A	B	C	C	75	H8年:大規模改修	
34	0140	黒木小学校	屋内運動場(体育館・更衣室)	011.017.018	小学校	体育館	S	2	609	1984	S59	38	新						A	A	B	B	B	84		
35	0140	黒木小学校	校舎①(普通・特別・管理棟)	012	小学校	校舎	RC	3	924	1994	H6	28	新						A	A	A	B	B	94		
36	0141	福重小学校	校舎①(管理・特別教室棟)	001	小学校	校舎	RC	2	740	1967	S42	55	旧	済	-	H20	20.1	長寿命	A	B	A	C	C	78	H6年:大規模改修	
37	0141	福重小学校	校舎②(普通教室棟)	003	小学校	校舎	RC	2	722	1957	S32	65	旧	済	-	H20	11.7	要調査	C	C	A	C	C	62	H6年:大規模改修	
38	0141	福重小学校	屋内運動場	007	小学校	体育館	S	2	585	1972	S47	50	旧	済	済	H21			A	C	B	C	C	58	H23年:耐震補強	
39	0141	福重小学校	校舎③(普通教室棟)	017	小学校	校舎	RC	2	409	1988	S63	34	新						A	B	A	B	B	87		
40	0142	松原小学校	校舎①(管理・特別教室棟・普通教室棟)	006.007	小学校	校舎	RC	3	2,791	1971	S46	51	旧	済	済	H20	15.8	長寿命	B	C	B	C	C	56	H5年:大規模改修 H24年:耐震補強	
41	0142	松原小学校	屋内運動場	008	小学校	体育館	S	2	608	1973	S48	49	旧	済	済	H21			B	A	A	C	C	83	H23年:耐震補強	
42	0524	放虎原小学校	校舎①(普通・特別教室棟)	001	小学校	校舎	RC	2	1,764	1977	S52	45	旧	済	-	H21	21	長寿命	B	B	C	C	C	53		
43	0524	放虎原小学校	校舎②(管理・普通・特別教室棟)	005	小学校	校舎	RC	2	1,368	1978	S53	44	旧	済	-	H21	20	長寿命	C	A	C	B	B	66		
44	0524	放虎原小学校	屋内運動場	007	小学校	体育館	S	2	775	1978	S53	44	旧	済	済	H21			B	A	A	B	B	92	H25年:耐震補強	
45	0524	放虎原小学校	校舎③(普通・特別教室棟)	015	小学校	校舎	RC	3	613	1983	S58	39	新						A	A	A	B	B	94		
46	0524	放虎原小学校	校舎④(普通・特別教室棟)	019	小学校	校舎	RC	3	760	1995	H7	27	新						A	A	A	B	B	94		
47	0530	旭が丘小学校	校舎①(管理・普通・特別教室棟・湯沸室)	001.012	小学校	校舎	RC	3	1,956	1980	S55	42	旧	済	済	H14	21	長寿命	B	A	A	B	B	92	H17年:耐震補強	
48	0530	旭が丘小学校	校舎②(普通・特別教室棟)	004	小学校	校舎	RC	3	1,004	1981	S56	41	新						B	A	A	B	B	92		
49	0530	旭が丘小学校	屋内運動場	006	小学校	体育館	S	2	775	1982	S57	40	新						A	C	B	B	B	67		
50	0530	旭が丘小学校	校舎③(普通・特別教室棟)	010	小学校	校舎	RC	3	625	1990	H2	32	新						A	B	A	B	B	87		
51	0534	富の原小学校	校舎①(管理・普通・特別教室棟・湯沸室)	001.023	小学校	校舎	RC	3	2,916	1982	S57	40	新						B	A	B	B	B	82		
52	0534	富の原小学校	屋内運動場	005	小学校	体育館	S	2	775	1983	S58	39	新						A	A	A	B	B	94		
53	0534	富の原小学校	校舎②(普通・特別教室棟)	014	小学校	校舎	RC	3	642	1991	H3	31	新						A	A	A	B	B	94		
54	0534	富の原小学校	校舎③(普通教室棟)	021																						

建物情報一覧表

基準2022

:築50年以上

:築30年以上

A

:概ね良好

B

:部分的に劣化

C

:広範囲に劣化

D

:早急に対応する必要がある

建物基本情報													構造躯体の健全性						劣化状況評価						備考	
通し 番号	学校調 査番号	施設名	建物名	棟番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定			屋根・ 屋上	外 壁	内 部仕 上	電 気設 備	機 械設 備	健全度 (100点 満点)		
					学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査 年度	圧縮強 度(N/㎠)	試算上 の区分								
55	3572	玖島中学校	屋内運動場(体育館・体育館倉庫)	007.027	中学校	体育館	S	2	1,132	1968	S43	54	旧	済	済	H21			A	B	C	C	C	55	H2年：大規模改修 H25年：耐震補強	
56	3572	玖島中学校	校舎①(教室学習棟)	022.024	中学校	校舎	RC	3	2,648	2003	H15	19	新					A	B	A	A	A		93		
57	3572	玖島中学校	校舎②(芸術科学棟)	023.026	中学校	校舎	RC	3	2,647	2003	H15	19	新					B	A	B	A	A		89		
58	3572	玖島中学校	校舎③(管理棟)	025	中学校	校舎	RC	2	1,346	2003	H15	19	新					A	A	A	A	A		100		
59	3572	玖島中学校	武道場	030	中学校	武道場	RC	1	450	2010	H22	12	新					B	A	A	A	A		98		
60	3573	西大村中学校	校舎①(管理・特別教室棟・湯沸室)	001-1.001-2.017	中学校	校舎	RC	2	1,320	1962	S37	60	旧	済	-	H18	10.6	要調査	A	A	A	C	C		85	S62年：大規模改修 H21年：大規模改修
61	3573	西大村中学校	校舎②(特別教室棟)	002-1.002-2	中学校	校舎	RC	2	1,468	1961	S36	61	旧	済	済	H18	11	要調査	C	B	A	C	C		72	S62年：大規模改修 H20年：大規模改修、耐震補強
62	3573	西大村中学校	校舎③(普通教室棟)	003-1.003-2	中学校	校舎	RC	2	1,468	1960	S35	62	旧	済	済	H18	18	長寿命	B	B	A	C	C		75	S62年：大規模改修 H20年：大規模改修、耐震補強
63	3573	西大村中学校	校舎④(特別教室棟・部室)	004.028	中学校	校舎	S	1	256	1963	S38	59	旧	済	-	H18			A	B	A	C	C		78	S62年：大規模改修
64	3573	西大村中学校	屋内運動場(体育館・体育倉庫)	011-1.011-2	中学校	体育館	S	2	922	1964	S39	58	旧	済	済	H18			B	B	B	C	C		66	S62年：大規模改修 H20年：大規模改修、耐震補強
65	3573	西大村中学校	校舎⑤(特別教室棟)	016	中学校	校舎	RC	2	1,507	1975	S50	47	旧	済	-	H18	24	長寿命	B	B	A	C	C		75	H21年：大規模改修
66	3573	西大村中学校	武道場	022	中学校	武道場	RC	1	450	1999	H11	23	新					A	A	A	A	A		100		
67	3574	萱瀬中学校	屋内運動場	009	中学校	体育館	S	2	656	1971	S46	51	旧	済	済	H21			A	B	B	C	C		68	H5年：大規模改修 H23年：耐震補強
68	3574	萱瀬中学校	校舎①(管理・特別教室棟)	014	中学校	校舎	RC	2	734	1977	S52	45	旧	済	済	H21	21	長寿命	B	A	B	C	C		73	H4年：大規模改修 H23年：耐震補強
69	3574	萱瀬中学校	校舎②(普通・特別教室棟)	015	中学校	校舎	RC	3	910	1977	S52	45	旧	済	済	H20	21	長寿命		B	C	C	C		47	H22年：耐震補強
70	3575	郡中学校	校舎①(特別教室棟)	009	中学校	校舎	S	1	239	1962	S37	60	旧	済	-	H20			B	A	A	C	C		83	
71	3575	郡中学校	屋内運動場(体育館・体育倉庫)	013.029	中学校	体育館	S	2	969	1966	S41	56	旧	済	済	H20			C	A	D	C	C		46	H22年：耐震補強
72	3575	郡中学校	校舎②(特別・普通教室棟)	017	中学校	校舎	RC	3	2,158	1974	S49	48	旧	済	済	H20	20	長寿命	C	C	B	C	C		53	H14年：大規模改修 H22年：耐震補強
73	3575	郡中学校	校舎③(特別・普通教室棟)	018.019	中学校	校舎	RC	3	2,098	1975	S50	47	旧	済	済	H20	24	長寿命	B	C	C	C	C		43	H22年：耐震補強
74	3575	郡中学校	武道場	037	中学校	武道場	RC	1	450	2001	H13	21	新					A	A	A	A	A		100		
75	3575	郡中学校	校舎④(管理・特別教室棟)	038	中学校	校舎	RC	2	1,651	2014	H26	8	新					A	A	A	A	A		100		
76	3777	大村中学校	校舎①(管理・普通・特別教室棟)	001	中学校	校舎	RC	4	4,986	1985	S60	37	新					B	A	A	B	B		92		
77	3777	大村中学校	屋内運動場	002	中学校	体育館	S	2	1,011	1985	S60	37	新					A	B	A	B	B		87		
78	3777	大村中学校	校舎②(特別教室棟)	012	中学校	校舎	RC	3	596	1993	H5	29	新					A	B	A	B	B		87		
79	3777	大村中学校	武道場	016	中学校	武道場	RC	2	516	2010	H22	12	新					A	B	A	A	A		93		
80	3780	桜が原中学校	校舎①(管理・普通・特別教室棟)	001	中学校	校舎	RC	3	4,845	1986	S61	36	新					A	A	A	B	B		94		
81	3780	桜が原中学校	屋内運動場	002	中学校	体育館	S	2	1,011	1986	S61	36	新					A	B	B	B	B		77		
82	3780	桜が原中学校	校舎②(普通・特別教室棟)	010	中学校	校舎	RC	3	593	1993	H5	29	新					A	A	A	B	B		94		
83	3780	桜が原中学校	武道場	013	中学校	武道場	RC	1	450	2010	H22	12	新					A	A	A	A	A		100		
84	3780	桜が原中学校	校舎③(普通・特別教室棟)	014	中学校	校舎	RC	2	905	2011	H23	11	新					A	A	A	A	A		100		
50%未満																							5			
小学校平均値																							75.8			
中学校平均値																							80.7			

第3章 学校施設整備の基本方針

1 学校施設の規模・配置計画等の方針

本市の学校施設は、過大規模校に分類される竹松小のほか、大規模校が小学校で6校、中学校で2校ある一方で、小学校4校、中学校1校が小規模校、小学校2校が過小規模校に分類される状況であり、都市部と中山間部の学校規模の格差が大きい状況となっています。

学校別の児童数・生徒数、学級数

区分	No.	学校名	児童生徒数(人)	学級数	
				学級数計	特別支援学級
小学校	1	三浦小学校	159	6	
	2	鈴田小学校	174	8	1
	3	三城小学校	601	21	2
	4	大村小学校	582	24	5
	5	東大村小学校	30	3	
	6	西大村小学校	679	24	3
	7	中央小学校	368	15	2
	8	竹松小学校	934	33	4
	9	萱瀬小学校	74	7	1
	10	黒木小学校	22	3	
	11	福重小学校	297	14	2
	12	松原小学校	114	8	2
	13	放虎原小学校	678	23	2
	14	旭が丘小学校	628	24	5
	15	富の原小学校	921	30	2
中学校	16	玖島中学校	408	15	3
	17	西大村中学校	517	17	2
	18	萱瀬中学校	53	4	1
	19	郡中学校	667	20	2
	20	大村中学校	551	18	2
	21	桜が原中学校	735	22	1

(令和元年5月1日現在)

学校別の学級数による分類

	過小規模校	小規模校	適正規模校	大規模校	過大規模校
小学校	5学級以下	6～11学級	12～18学級	19～30学級	31学級以上
	東大村小 黒木小	三浦小 鈴田小 萱瀬小 松原小	中央小 福重小	三城小 大村小 西大村小 放虎原小 旭が丘小 富の原小	竹松小
中学校	2学級以下	3～11学級	12～18学級	19～30学級	31学級以上
		萱瀬中	玖島中 西大村中 大村中	郡中 桜が原中	

都市部の児童生徒数は更に増加する勢いであり、逆に中山間部の児童生徒数は引続き減少傾向にあり、学校規模の格差の拡大がさらに進むことが予測されます。このため、本市においては、学校規模の適正化の検討が重要な課題となります。学校の規模が大きすぎる場合においても、小さすぎる場合においても教育上のデメリットが生じるため、こうした課題の解消をできるだけ図る必要があります。

一方で、学校の新設や統廃合へ向けての合意形成については、保護者だけでなく地域住民の理解や協力を得ながら進めていくことが重要です。

このため、本計画においては学校の新設や統廃合は考慮しないものとして、現状の規模や配置を維持すると仮定した場合の検討を行うこととします。

学校の規模によるメリット・デメリット

	メリット	デメリット
過小規模校 小規模校	○ 児童生徒と教師の距離が近く、一人一人への理解がより深まる。 ○ 意見や感想を発表できる機会が多くなる。 ○ 児童生徒の特性に応じたきめ細やかな指導が可能である。 ○ 意見や感想を発表できる機会が多くなる。 ○ 複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる。 ○ 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。 ○ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって利用できる。	○ クラス替えが全部又は一部の学年でできない。 ○ クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。 ○ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる。 ○ 集団性が必要な活動に支障が出る。 ○ 専門の免許を有する教諭等による教科指導が困難である。 ○ 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる。 ○ 人間関係が固定化されている。 ○ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる。
過大規模校 大規模校	○ 大人数の児童生徒の中で多様な考えに触れることができ、切磋琢磨する中で社会性が育成される。 ○ クラス替えを契機として児童生徒が意欲を新たにすることができる。 ○ グループ学習等の多様な展開を行いやすい。 ○ 教科や部活動等、専門的な立場から指導が受けられる。 ○ 部活動の選択肢が増える。 ○ 学校行事等における児童生徒の活動が活性化される。	○ 個に応じたきめ細やかな指導を行う上で、行き届かない部分について対策を講じる必要がある。 ○ 教員集団として、児童生徒一人一人の個性や行動を把握し、きめ細やかな指導を行うことが困難であり、一人一人の実態把握に時間がかかる。 ○ 児童生徒指導面での対応が複雑になりやすい。 ○ 児童生徒一人当たりの校舎面積、運動場の面積等が著しく狭くなった場合、教育活動の展開に支障が生じる場合がある。

資料：公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き（平成27年1月）

2 改修等の基本的な方針

本市の学校施設や設備の老朽化、不具合などの実態を踏まえ、「学校施設の目指すべき姿」を持続的に実現していくための基本的方針を次のように設定します。

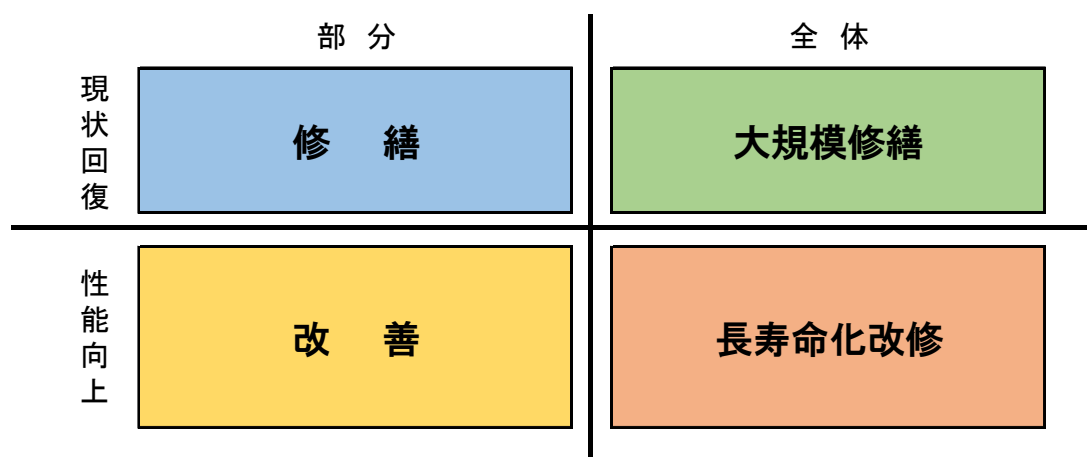
(1)長寿命化の方針

本市の厳しい財政状況において従来の改築を中心とした老朽化対策では、対応しきれない施設が大幅に増加するおそれがあります。中長期的な維持管理等に関わるトータルコストの縮減・予算の平準化を実現するため、改築より工事費が安価で、廃棄物や二酸化炭素の排出量を少なくする対策が重要となっています。そのため、建物を将来にわたって長く使い続けるために耐用年数を延ばすことを目的とした長寿命化改修への転換を図ります。

学校施設の長寿命化

学校施設の改築までの平均年数は、鉄筋コンクリート造の場合、おおむね42年となっているが、実際の学校施設の物理的な耐用年数は、適切な維持管理がなされ、コンクリート及び鉄筋の強度が確保される場合には70～80年程度、さらに、技術的には100年以上持たせるような長寿命化も可能である。

一般的に改修といっても内容は様々であり、対象は部分なのか全体なのか、また、改修内容は元へ戻すだけなのか、機能や性能をあげるものなのかで4つの概念に整理されますが、「長寿命化改修」は、建物全体を改修し、併せて性能向上を伴うものとなります。



資料：「学校施設の長寿命化改修の手引き」より

長寿命化改修では、基本的に建物の耐久性向上、建物の性能や機能を向上するために下表に示す工事を行います。

長寿命化改修工事の内容例

耐久性向上	構造躯体の経年劣化を回復するもの	コンクリートの中性化対策 鉄筋の腐食対策等
	耐久性に優れた仕上材に取り替えるもの	劣化に強い塗装・防水材等の使用
	維持管理や設備更新の容易性を確保するもの	
	水道、電気、ガス管等のライフラインの更新	
性能向上	安全・安心な施設環境を確保するもの	○耐震対策（非構造部材を含む） ○防災機能の強化 ○事故防止・防犯対策 など
	教育環境の質的向上を図るもの	○近年の多様な学習内容・学習形態への対応 ○今後の学校教育や情報化の進展に対応可能な柔軟な計画 ○省エネルギー化・再生可能エネルギーの活用 ○バリアフリー化 ○木材の活用 など
	地域コミュニティの拠点形成を図るもの	○防災機能の強化 ○バリアフリー化 ○地域住民の利用を考慮した教室等の配置の変更 など

資料：「学校施設の長寿命化改修の手引き」より

さらに、改築と長寿命化改修には、それぞれ次のようなメリットとデメリットがありますが、長寿命化改修を行う方が、費用を大幅に縮減しつつ、改築と同等の効果が期待でき、費用対効果は非常に大きくなります。

改築と長寿命化改修のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
改 築	○設計や施工上の制約が少ない ○高層化や地下階の拡大が容易に可能、設計や施工は比較的容易、耐震基準、法規などについては最新のものに対応が容易	○廃棄物が大量に発生する。既存建物の解体と廃棄に費用と時間がかかる ○工事に時間と費用がかかる
長寿命化改修	○工期の短縮、工事費の縮減ができる ○廃棄物が少ない	○設計及び施工上の制約が多い ○柱・耐力壁などの既存躯体を利用するため間取りの変更に制約が生じる場合がある。計画には十分な検討が必要

資料：「学校施設の長寿命化改修の手引き」より

(2) 予防保全の方針

施設をできる限り長く使用するため、適切な維持管理を行っていくことが重要であり、そのための整備方法として、「事後保全」と「予防保全」の2つがあります。

「事後保全」は老朽化による劣化・破損等の大規模な不具合が生じた後に修繕等を行うもので、従来の施設管理の多くで行われていました。一方、「予防保全」は損傷が軽微である早期段階から予防的な修繕等を実施することで機能・性能の保持・回復を図り、これにより突発的な事故が減少し、多額の費用の発生を抑えることができます。また、「予防保全」では、計画的な修繕を行うことで、施設に不具合が生じる前にメンテナンスを施し、従来の「事後保全」での整備と比較して施設を長く使用することができます。したがって、学校施設の整備は今後「事後保全」から「予防保全」への転換を図る必要があります。

学校施設の保全

保 全	建物や設備が完成してから取り壊すまでの間、その性能や機能を良好な状態に保つほか、社会・経済的に必要とされる性能・機能を確保し、保持し続けること。保全のための手段として、点検・診断・改修等がある。
事後保全	老朽化による不具合が生じた後に修繕等を行う、事後的な保全のこと。
予防保全	損傷が軽微である早期段階から、機能・性能の保持・回復を図るために修繕等を行う、予防的な保全のこと。なお、あらかじめ周期を決めて計画的に修繕等を行う保全のことを「計画保全」という。

(3)目標使用年数の設定

学校施設の鉄筋コンクリート造建物の法定耐用年数は47年となっていますが、これは税務上、減価償却を算定するために設定された年数となります。構造物としての物理的な耐用年数はこれよりも長くなっています。

建築物全体の望ましい目標使用年数として、鉄筋コンクリート造学校の場合、普通品質で50～80年、高品質の場合は80～120年とされている。

(「建築物の耐久計画に関する考え方」社団法人日本建築学会、昭和63年)

これを踏まえ、学校施設の目標使用年数は、公共建築物長寿命化指針で示される70～80年を基本として設定します。なお、各施設の改築時期については、財政負担の関係上、学校施設全体の事業量について平準化を図る必要があるため、目標使用年数70～80年から若干前後させる設定も必要となる場合があります。

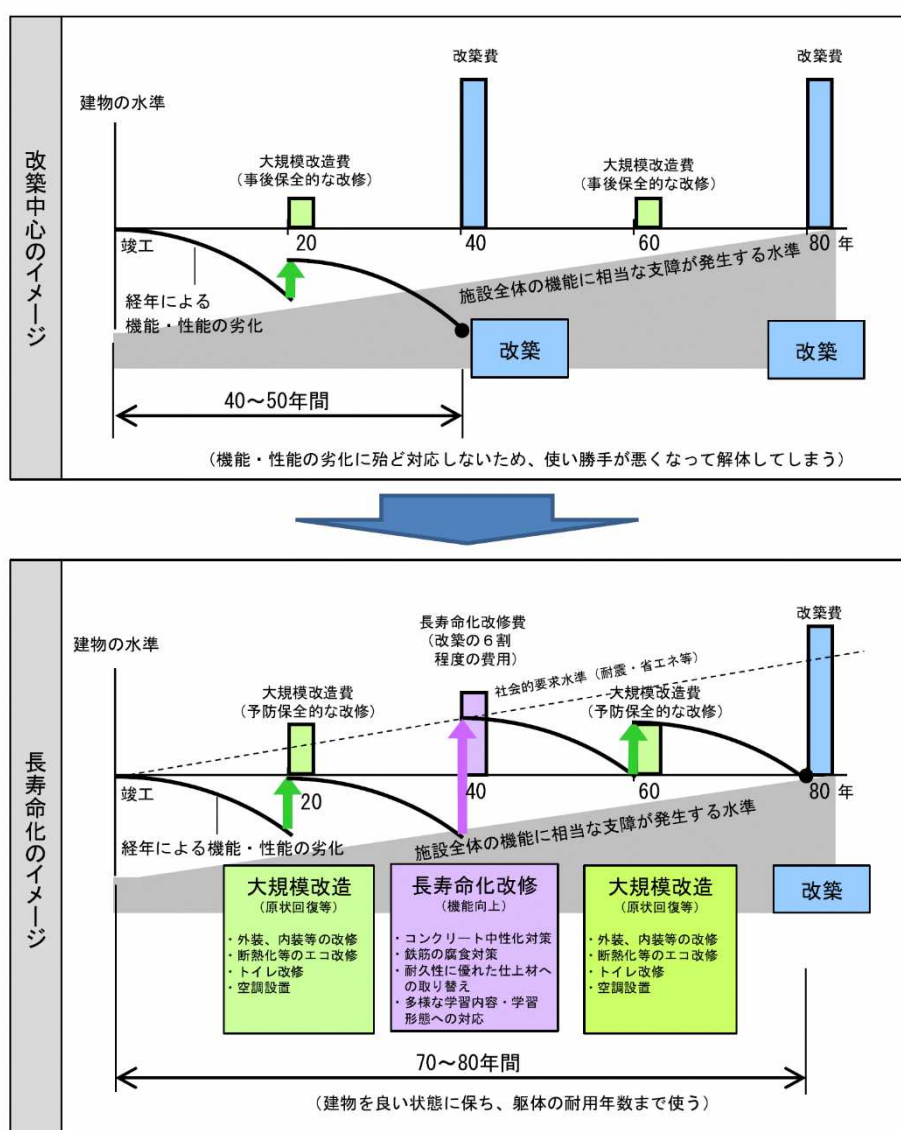
また、鉄骨造建物については技術的な耐用年数の目安が特にありませんが、鉄骨構造における防錆やボルトの締め付け力が維持される限り使用可能であると想定し、鉄筋コンクリート造建物と同等の年数とします。

(4)改修周期の設定

学校施設整備の方針を、改築を中心とした整備から長寿命化を図る方向へと転換し、あらかじめ設定した目標使用年数まで使用することを目標に、適切な時期に改修を行います。

例えば、築20年経過後に原状回復のための改修(予防保全的な改修)を行い、目標使用年数の中間期(概ね40年後)に長寿命化改修を実施、その後、改築までの期間に再度原状回復のための改修を行うなど長寿命化に取り組みます。

このように定期的に必要な改修を行うことで経年による劣化状況の回復だけではなく、学校施設の機能・性能の低下を長期間放置することなく、社会的に必要とされる多様な学習形態の水準まで引き上げることができるように取り組みます。

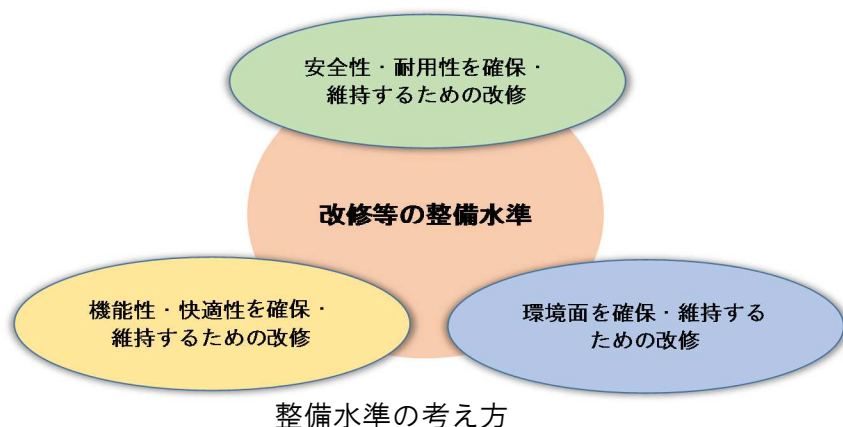


改築中心から長寿命化への転換のイメージ

資料;学校施設の長寿命化計画策定に係る手引(平成 24 年4月 文部科学省)

第4章 改修等の整備水準

長寿命化改修に当たっては、単に建築時の状態に戻すのではなく、「安全性・耐用性」をはじめ、「機能性・快適性」、「環境面」を確保するための改修を行います。



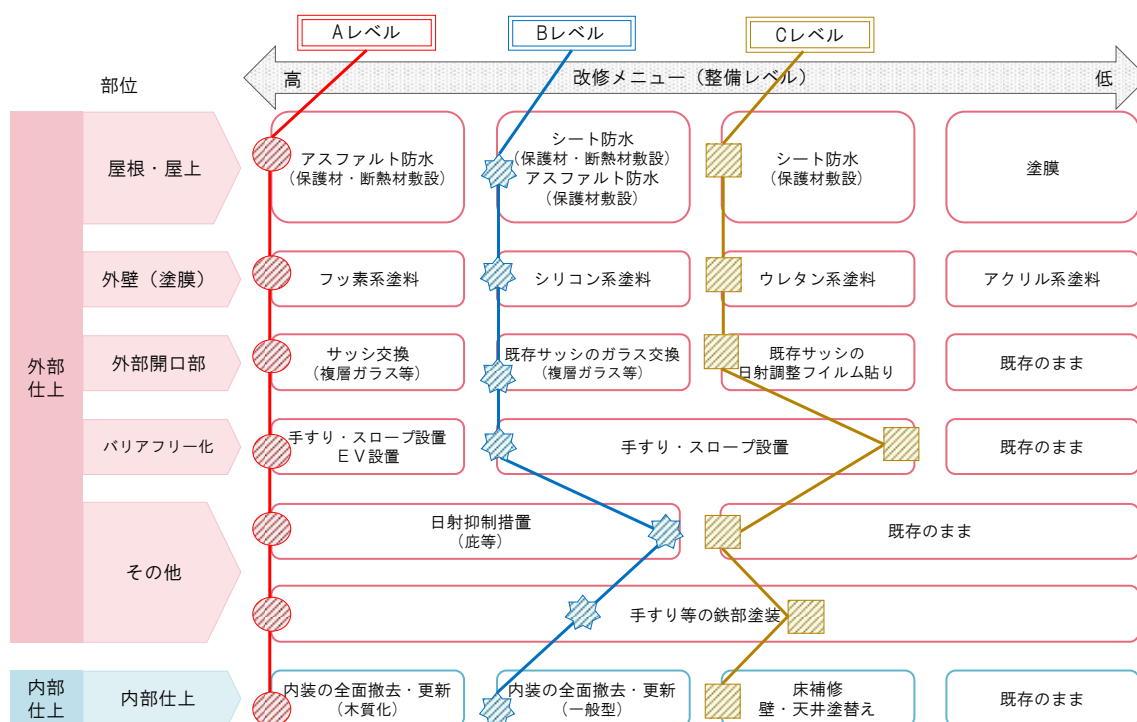
「安全面・耐用性」、「機能性・快適性」の改修では、構造体の長寿命化やライフラインの更新等により建物の耐久性を高め、維持管理コストの縮減、計画的な支出による財政の平準化を図ります。また、「環境面」の改修では多様な学習形態による活動が可能となる環境の提供など、現代の社会的な要請に応じるための改修を行います。

改修工事等における整備内容(例)

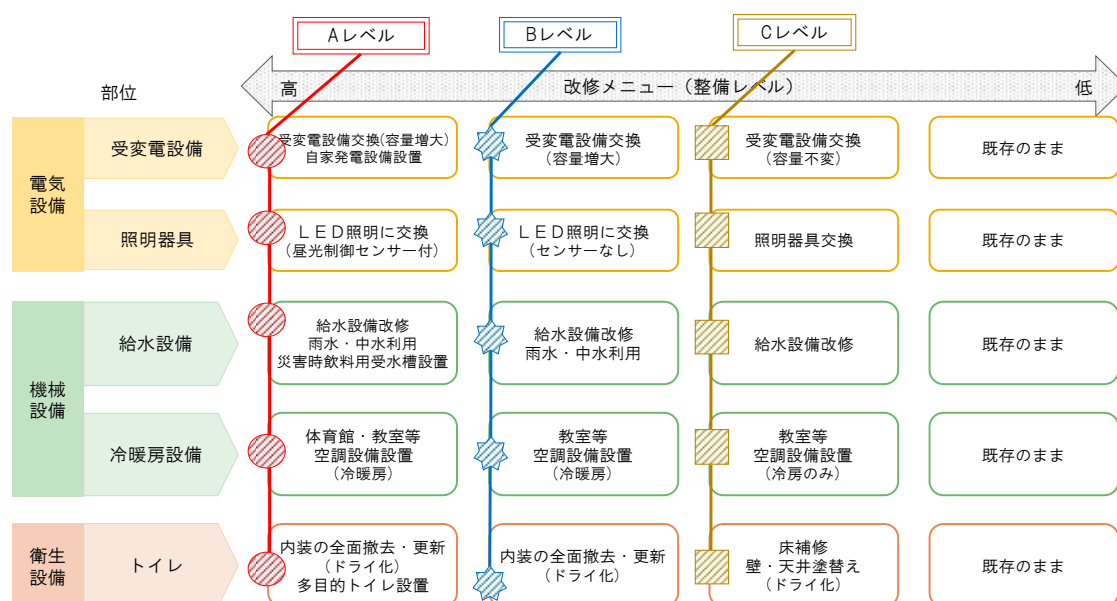
項 目	整 備 内 容
安全性・耐用性を確保・維持するための改修 ○構造体の長寿命化や内外装仕上等の改修、設備更新や必要な防災・防犯機能の付加等	● 外装(屋上防水、外装仕上材、躯体のクラック、鉄筋、浮き補修等) ● 屋上・屋根(防水改修等) ● 内装(床、壁、天井、間仕切り等) ● 非構造部材の耐震対策 ● 防災機能 ● 防犯対策/事故防止対策
機能性・快適性を確保・維持するための改修 ○機能性や快適性等、学校生活の場として必要な環境の確保・維持や、必要な社会ニーズに応じた機能付加等	● 受変電、照明設備等更新 ● 設備(空調、給排水等) ● ICT 設備 ● バリアフリー対応(段差の解消等) ● トイレ改修(洋式化、乾式化)
環境面を確保・維持するための改修 ○断熱や遮音等による環境面の向上や省エネ化によるコスト削減等	● 断熱性能の向上(壁、開口部等) ● 遮音性能の向上(壁、開口部等) ● 設備の高効率化(LED 化、エアコン設置等)

長寿命化改修では、整備水準を高めるほどコストは高くなりますが、建物性能の向上により建物寿命が延びたり、設備機能の向上により光熱水費の縮減につながります。

下図に示す整備水準において、Aレベルはもっとも整備水準が高く、Cレベルは従来の整備水準にほぼ相当します。このため、基本的な整備水準をBレベルに設定しますが、建物の劣化状況や改修内容により整備水準を柔軟に変更します。また、ライフサイクルにおけるコストの試算を行い、予算の見通しを踏まえた整備水準の設定を行います。



校舎・体育館等の整備水準



主要な設備の整備水準

第5章 維持管理の項目・手法等

1 維持管理の必要性

学校施設は、児童生徒の学習・生活の場であるとともに、非常災害時には避難所として地域住民の避難生活の拠点としての役割も担うものであるため、平常時だけでなく災害時においても十分な安全性・機能性を有することが求められます。

しかし、建築当初には確保されているこれらの性能も、経年劣化等により必要な性能を満たさなくなっているおそれがあることから、学校施設の管理者においては、当該施設が常に健全な状態を維持できるよう、法令等(建築基準法、消防法等)に基づいて定期的に点検を行い、必要な修理・修繕等を速やかに実施し、適切に維持管理を行っていくことが必要です。

また、学校施設を適切に維持管理するためには、施設の管理者と学校の教職員がそれぞれの立場に応じて点検等を行うことが重要です。

2 維持管理の項目

施設の維持管理については、関係者が日常的に点検を行い、建物の劣化状況等を早い段階で把握できるようにするとともに、建築基準法等に基づいて、「定期的な点検の実施」と「点検結果に基づく必要な修繕等」を行うことが義務付けられています。

「定期的な点検の実施」は建築基準法や消防法に基づき定められた点検項目等について、専門的な知識を持った有資格者に、一定の期間ごとに点検を実施させることとなります。

建築基準法に基づく法定点検

点検する項目		点検内容	点検する項目	点検内容
A. 敷地及び地盤			E. 避難施設等	
地 盤		不陸、傾斜等	居室から地上への通路	基準適合性
敷 地		排水	廊下、出入口	物品放置
敷地内通路		通路の確保、支障物	避難上有効なバルコニー	劣化・損傷
塀		劣化・損傷	階 段	劣化・損傷
擁 壁		劣化・損傷	排煙設備等	防煙壁 劣化・損傷
B. 建築物の外部				排煙設備 作動、排煙口
基礎・土台		劣化・損傷、沈下	進入口等	維持保全
外 壁	躯体等	劣化・損傷	照明装置	劣化・損傷
	外装仕上材	劣化・損傷	F. その他	
	窓サッシ等	劣化・損傷	特殊構造等(免震構造等)	劣化・損傷
C. 屋上及び屋根			避雷設備	劣化・損傷
屋上面、屋上回り		劣化・損傷	煙 突	劣化・損傷
		劣化・損傷		
機器及び工作物		劣化・損傷		
D. 建築物の内部				
防火区画		劣化・損傷		
内 壁		劣化・損傷		
床		劣化・損傷		
天 井		劣化・損傷		
防火設備		劣化・損傷		
照明器具、懸垂物等		劣化・損傷		
居室の採光及び換気		劣化・損傷、作動		

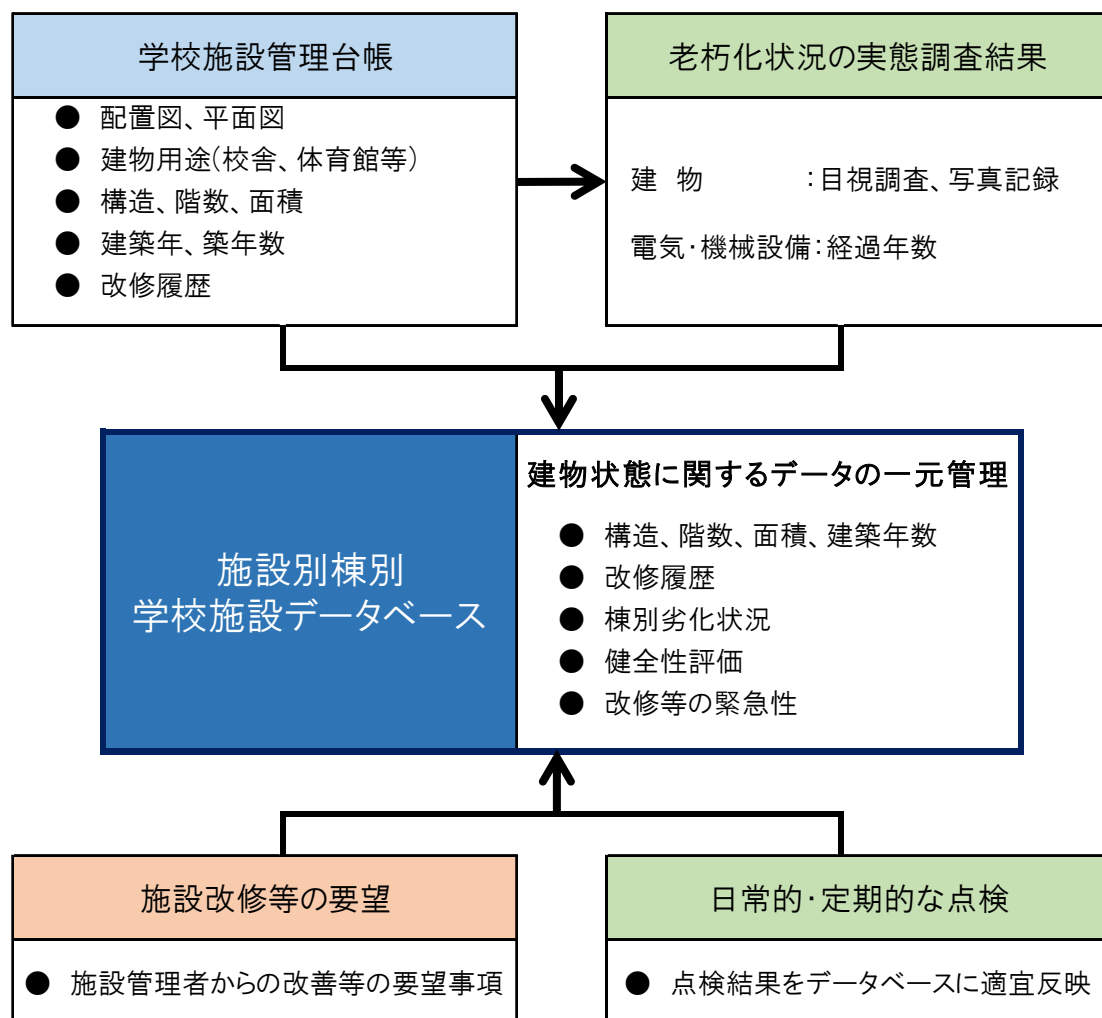
また、日常的に維持管理を行うことで、建物の劣化状況を詳細に把握できるとともに、より早く異常に気付くことができるため、施設の状況に応じた維持、改修内容や時期の検討が早期に可能となります。

維持管理のための点検

点検分野	項 目	内 容
日常的な維持管理のための点検	清 掃	● 汚れを除去すること及び汚れを予防することにより仕上げ材を保護し、快適な環境に保つための作業
	保 守	● 点検の結果に基づき、建築物等の機能の回復又は危険の防止のために行う消耗部品の交換、注油、塗装その他これらに類する軽微な作業
	日常点検	● 目視、聴音、触接等の簡易な方法により、巡回しながら日常的に行う点検 ● 機器及び設備について、異常の有無、兆候を発見
定期的な維持管理のための点検	自主点検	● 機器及び設備の破損、腐食状況を把握し、修理・修繕等の保全計画の作成
	法定点検	● 自主点検では確認できない箇所や、法的に定められた箇所に関して、専門業者により点検 ● 当該点検を実施するために必要な資格又は特別な専門的知識を有する者が定期的に行う点検
臨時的な維持管理のための点検	臨時点検	● 日常、定期点検以外に行う臨時的な点検 ● 建築物等の部分について、損傷、変形、腐食、異臭その他の異常の有無を調査し、保守又はその他の措置が必要か否かを判断

3 点検・評価結果の蓄積

施設の予防保全管理に日常的に取り組む上で、建物の定期的な点検により老朽化の状況を把握し、改修履歴も含めた施設の情報をデータベース化し、随時更新していくことにより、長寿命化を図るための大規模改修を計画的かつ円滑に行うように努めます。



点検・評価結果のデータベース化(イメージ)

第6章 学校施設長寿命化の実施計画

1 ライフサイクルコストの算定

現在ある学校施設を今後も保有し続け、改修を行いながら耐用年数経過後に現在と同じ規模で改修を行うとした場合(事後保全型の維持・管理)と、適切な時期に長寿命化改修を行い、計画的に施設の長寿命化を図った場合(予防保全型の維持・管理)について、国のライフサイクルコスト算出の考え方にに基づき算出します。

ライフサイクルコスト(以下、LCC)の算出は、長寿命化改修を実施しない場合と実施した場合、それぞれについて、建設時点から次の建替えまでに要するコストについて比較・検討しています。

LCCとは、建築物の企画設計段階、建設段階、運用管理段階及び解体再利用段階の各段階のコスト(費用)の総計のこと。

○長寿命化型改善を実施しない場合⇒コストは少ないが、使用年数も短い

○長寿命化型改善を実施した場合 ⇒コストは高いが、使用年数も長い

学校施設のコスト試算に当たっては、校舎、体育館、武道場について、下表の単価設定に基づいて行いました。

施設名	A:工事価格 (千円)	B:延床面積 (㎡)	【A/B】 C:改築単価 〔千円/㎡〕	D:建設工事 費デフレターに よる補正值 〔千円/㎡〕
大村小学校校舎	418,503	1,546	271	315
郡中学校校舎	353,639	1,651	214	235
平 均 値			242	275
玖島中学校武道場	114,201	450	254	315
大村中学校武道場	123,856	516	240	298
桜が原中学校武道場	109,788	449	245	299
平 均 値			246	304

施設名	E:解体費用 (千円)	B:延床面積 (㎡)	【E/B】 F:解体単価 〔千円/㎡〕	G:建設工事 費デフレターに よる補正值 〔千円/㎡〕
大村小学校校舎	41,260	1,510	27	31
郡中学校校舎	57,284	1,781	32	35
平 均 値			30	33

試算上の単価

施設名	改築単価 改め 〔千円/㎡〕
校舎	310
体育館	340
武道場	340

改築単価の設定根拠

改築単価を基に、文部科学省の「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書付属エクセルソフト」(以下、「付属エクセルソフト」という。)の比率を使用して、下表のように各施設の単価を設定しています。

試算のための単価設定

	校舎		体育館		武道場	
	割合	設定単価	割合	設定単価	割合	設定単価
改築	100.0%	310,000円/㎡	100.0%	340,000円/㎡	100.0%	340,000円/㎡
長寿命化改修	60.0%	186,000円/㎡	60.0%	204,000円/㎡	60.0%	204,000円/㎡
大規模改造	25.0%	77,500円/㎡	22.0%	74,800円/㎡	22.0%	74,800円/㎡

また、下表のように改築、長寿命化改修、大規模改造などコスト試算の条件の設定を行っています。

コスト試算条件

	事後保全型	予防保全型＝長寿命化型
基準年度	令和4年度	試算期間；基準年度の翌年度から40年間
改 築	50年	長寿命化80年(50年＋30年)
長寿命化改修	—	築40年目
大規模改造	20年	築20年目

※コスト試算条件は付属エクセルソフトのプログラムで設定されている

前述の条件に基づき、付属エクセルソフトを使用して、令和5年～34年までの30年間の事後保全型と予防保全型の維持・更新コストを算出しました。(次ページ参照)

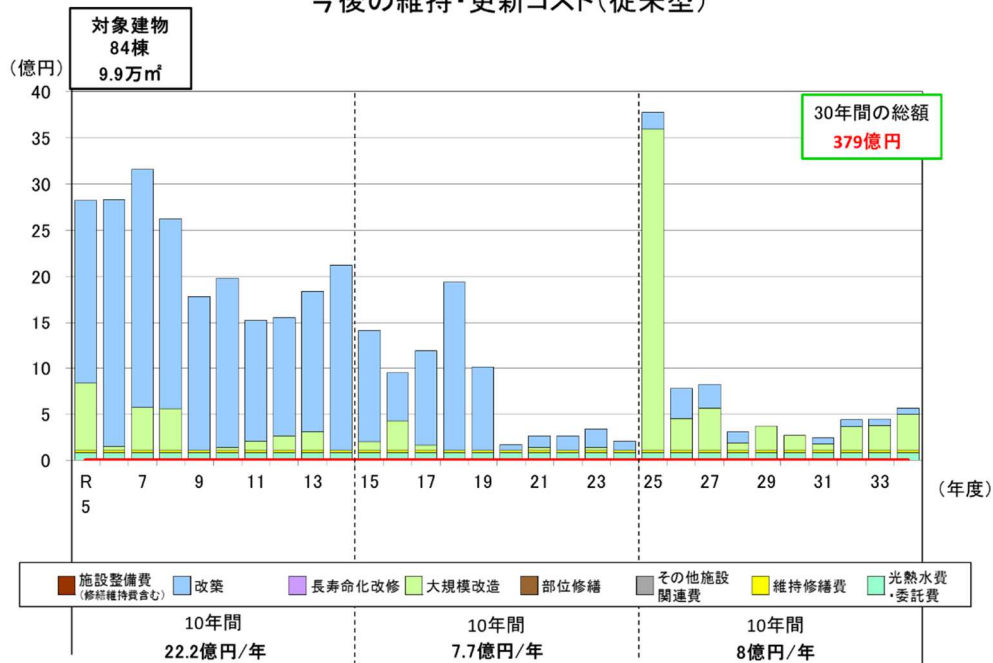
事後保全型の維持・更新を行った場合、30年間の累計で379億円の費用が発生します。一方、予防保全型(長寿命化改修を行った場合)の維持・更新を行った場合、30年間の累計は325億円となり、事後保全型よりも54億円の費用の縮減を図ることができます。

事後保全型の維持・管理から、予防保全型の維持・管理に移行することで、コストの削減を図ることができます。

維持・更新コストの結果比較

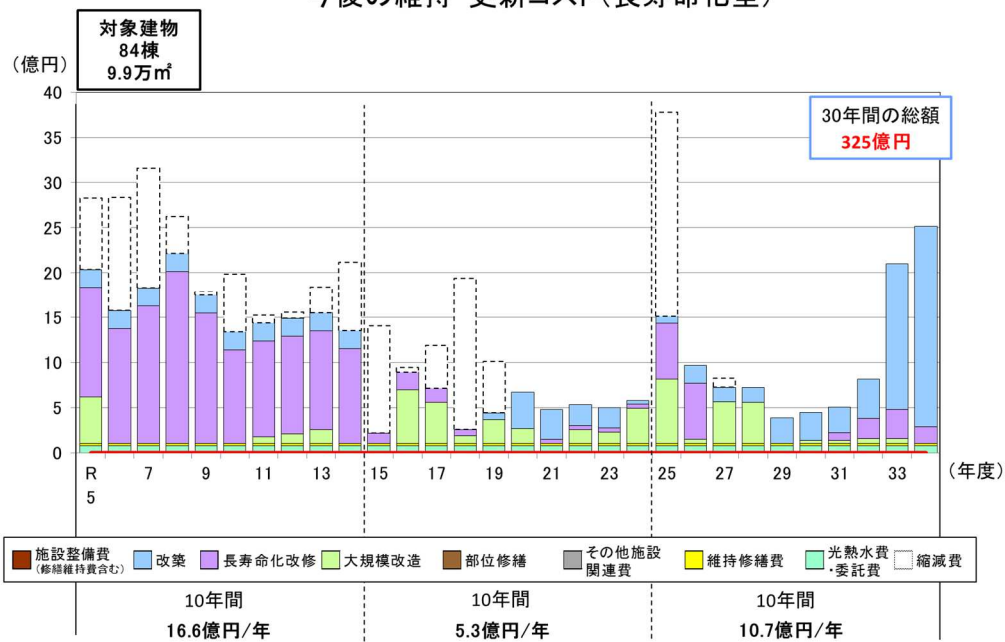
	令和5年 ～14年	令和15年 ～24年	令和25年 ～34年	30年間合計
事後保全型	222億円	77億円	80億円	379億円
予防保全型 長寿命化型	166億円	53億円	107億円	325億円
差 額	▲56億円	▲24億円	27億円	▲54億円

今後の維持・更新コスト(従来型)



維持・更新コスト(事後保全型)

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)



維持・更新コスト(予防保全型＝長寿命化型)

※計算上の理由により、10年間の平均コスト合計と30年間の総額は必ずしも一致しない
 ※R5年以降の「その他施設関連費」「維持修繕費」「光熱水費・委託費」は、H26～30年の平均額としている

R5～R14までのコストの考え方は以下のとおり

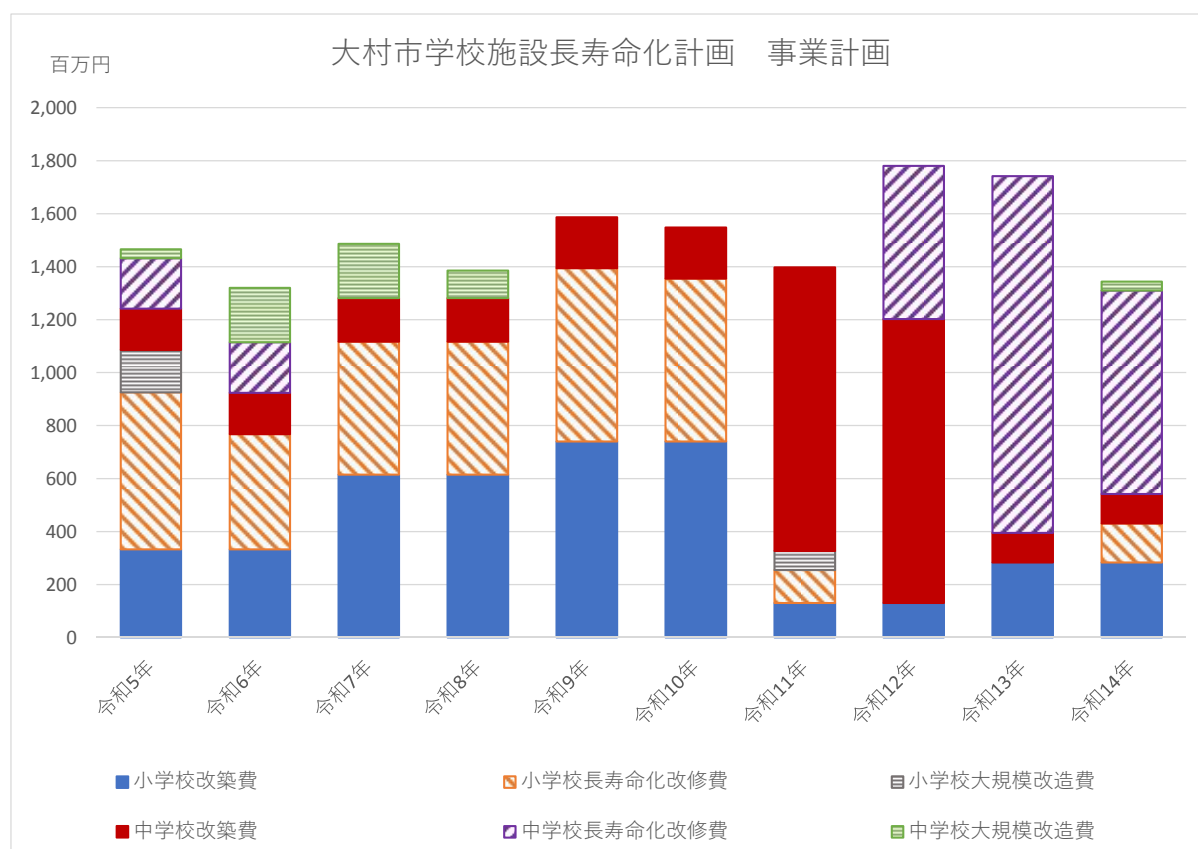
改築	R5年の時点で、標準の改築及び長寿命化改修の実施時期を過ぎている建物は、R5年から10年以内にそれらを実施するものとして、該当コストの10分の1の金額を10年間計上
長寿命化改修	

2 事業計画

計画期間である令和 14 年度までに実施する事業の費用とスケジュールを、以下の条件に沿って策定しました。

事業計画設定条件

- 事業開始年次を令和 5 年度とする。
- 基準年度（令和 4 年度）で築年数 46 年以上の建物を改築とし、築年数 45 年以下の建物を長寿命化の対象とする。
- 長寿命化の対象とする建物は、築年数 45 年を目途に長寿命化改修を行い、その後 80 年前後で改築とする。
- 改築、長寿命化改修工事は 2 ヶ年度で行い、仮設校舎の費用も含めるものとする。
- 改築時の延べ床面積は既存と同じ面積とし、複数建物の合築等は考慮しない。
- 校舎棟の改築時は一つの学校内で全棟の工事を同時に行うことにより、学校単位で一体的な改築計画とする。
- 既に長寿命化改修年次（築 40 年）を超えている建物については、令和 5 年度以降令和 10 年度までの 6 年間の間に、健全度の数値が低いものから優先して長寿命化改修を順次行くと共に事業費の平準化を図る目的で事業年次を前後に調整する。



学校施設長寿命化事業計画

R5～R14年度 事業計画
■小学校

基準 2022年

:アセットマネジメント事業計画における改築予定年次

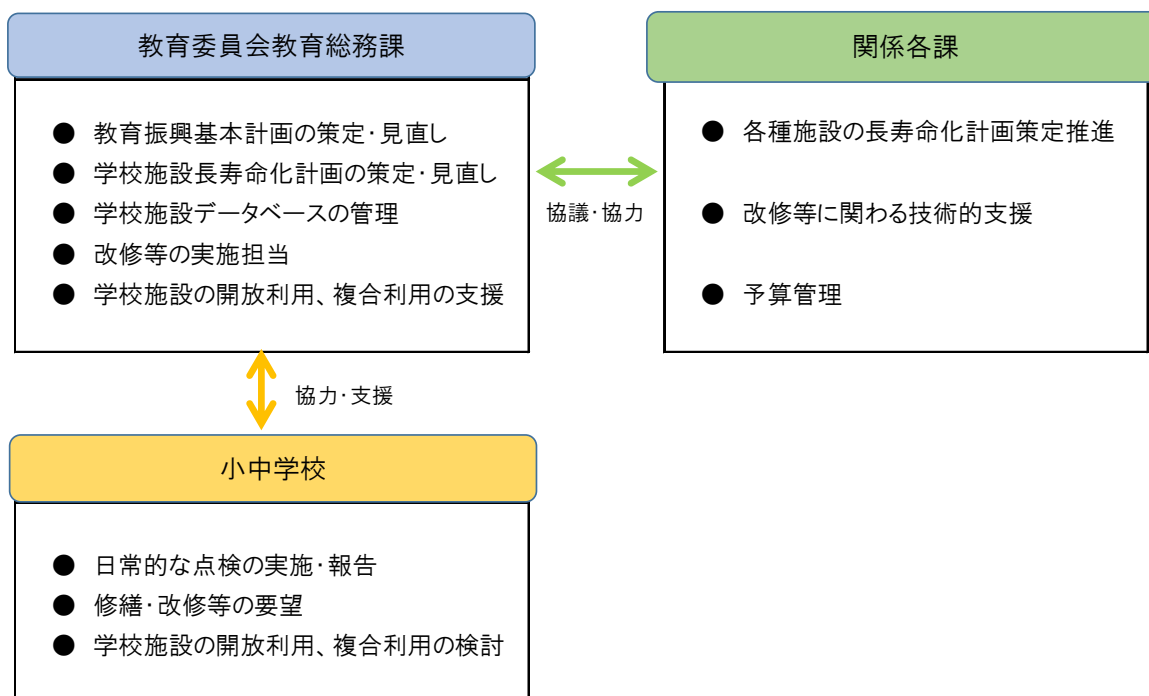
通 番 号	学 校 名	建 物 名	棟 番 号	構 造	階 数	面 積 (㎡)	建 築 年 度 (西 暦)	改 築 予 定 年 次	築 年 数	改 築 ま での 残 年 数	健 全 度	健 全 度 ラ ン ク												
													1 年 目	2 年 目	3 年 目	4 年 目	5 年 目	6 年 目	7 年 目	8 年 目	9 年 目	10 年 目	11 年 目 以 降	
													令和5年 工事費	令和6年 工事費	令和7年 工事費	令和8年 工事費	令和9年 工事費	令和10年 工事費	令和11年 工事費	令和12年 工事費	令和13年 工事費	令和14年 工事費		
1	三 浦 小 学 校	校舎①(普通教室棟,管理・普通・特別教室棟,配膳室)	006-1,006-2,021	RC	2	1,226	1974	2054	48	32	68	19											改 築	
2		校舎②(特別教室棟)	007,015	RC	1	441	1974	2054	48	32	75	26											改 築	
3		屋内運動場	009-1,009-2	S	2	617	1975	2055	47	33	66	13											改 築	
4	鈴 田 小 学 校	校舎①(管理・普通・特別教室棟,湯沸印刷室,トイレ,配膳室)	010,020,022,023	RC	2	1,665	1975	2055	47	33	83	33	大規模改造										改 築	
5		屋内運動場	014	S	2	775	1983	2063	39	41	94	43					長寿命化改修						大規模改造	
6		校舎②(特別教室棟)	016	RC	2	393	1989	2069	33	47	94	43	大規模改造											改 築
7	三 城 小 学 校	校舎①(管理・特別教室棟,湯沸室)	001-1,001-2,015	RC	2	1,531	1958	2038	64	16	73	22				改 築								大規模改造
8		校舎②(特別教室棟)	002	RC	2	1,351	1971	2051	51	29	83	33				改 築								大規模改造
9		屋内運動場	007-1,007-2	S	2	750	1973	2053	49	31	73	22												改 築
10		校舎③(特別教室棟)	013	RC	2	574	1981	2061	41	39	59	10				改 築								大規模改造
11	大 村 小 学 校	校舎①(特別支援教室棟)	003	RC	2	602	1958	2038	64	16	73	22												改 築
12		屋内運動場	011	S	2	768	1971	2051	51	29	68	19						改 築						大規模改造
13		校舎②(普通・特別教室棟,普通教室棟)	017-1,017-2	RC	3	2,558	1973	2053	49	31	57	8												改 築
14		校舎③(管理・特別・普通教室棟)	030	RC	2	1,546	2014	2094	8	72	100	52												大規模改造
15	東大村 小学校	校舎①(管理・普通・特別教室棟,配膳室)	008,016	RC	3	1,359	1982	2062	40	40	94	43					長寿命化改修							大規模改造
16		屋内運動場	011	S	2	584	1983	2063	39	41	94	43						長寿命化改修						大規模改造
17	西大村 小学校	校舎①(普通教室棟)	006,011	RC	2	1,471	1970	2050	52	28	78	30												改 築
18		校舎②(管理・普通教室棟)	013-1,013-2	RC	3	2,696	1972	2052	50	30	66	13												改 築
19		屋内運動場	014	S	2	782	1973	2053	49	31	75	26												改 築
20	中 央 小 学 校	校舎①(普通教室棟,管理・特別教室棟,特別教室棟)	001-1,001-2,016,017	RC	2	1,935	1959		63	0	56	6					改 築							大規模改造
21		校舎②(普通教室棟,配膳室)	004-1,004-2,021	RC	2	1,077	1960		62	0	51	3						改 築						大規模改造
22		校舎③(特別教室棟)	009	RC	2	577	1969	2049	53	27	66	13						改 築						大規模改造
23		校舎④(普通教室棟)	012	RC	2	353	1972	2052	50	30	66	13						改 築						大規模改造
24		屋内運動場	013	S	2	896	1973	2053	49	31	55	5												改 築
25		校舎⑤(特別教室棟)	019	RC	2	216	1976	2056	46	34	37	1					改 築							大規模改造
26	竹 松 小 学 校	校舎①(管理・普通教室棟,配膳室)	015-1,015-2,033	RC	3	2,525	1971	2051	51	29	72	21												改 築
27		校舎②(特別・普通教室棟)	016	RC	3	2,488	1972	2052	50	30	65	12												改 築
28		屋内運動場	017	S	2	896	1973	2053	49	31	73	22												改 築
29		校舎③(特別・普通教室棟)	032	RC	2	1,031	2011	2091	11	69	100	52												大規模改造
30		校舎④(通級棟,屋外トイレ)	034-1,034-2,038	RC	1	467	1957	2037	65	15	42	2												改 築
31	萱 瀬 小 学 校	校舎①(特別・普通教室棟)	001	RC	2	751	1970	2050	52	28	83	33									改 築			大規模改造
32		屋内運動場	008	S	2	608	1974	2054	48	32	75	29												改 築
33		校舎②(特別・管理室棟,配膳室)	010,011	RC	2	841	1976	2056	46	34	75	26								改 築				大規模改造
34	黒 木 小 学 校	屋内運動場(体育館,更衣室)	011,017,018	S	2	609	1984	2064	38	42	84	37						長寿命化改修						大規模改造
35		校舎①(普通・特別・管理棟)	012	RC	3	924	1994	2074	28	52	94	43												長寿命化改修
36	福 重 小 学 校	校舎①(管理・特別教室棟)	001	RC	2	740	1967	2047	55	25	78	30	改 築											大規模改造
37		校舎②(普通教室棟)	003	RC	2	722	1957		65	0	62	11	改 築											大規模改造
38		屋内運動場	007	S	2	585	1972	2052	50	30	58	9												改 築
39		校舎③(普通教室棟)	017	RC	2	409	1988	2068	34	46	87	38	改 築											大規模改造
40	松 原 小 学 校	校舎①(管理・特別教室棟,普通教室棟)	006,007	RC	3	2,791	1971	2051	51	29	56	6												改 築
41		屋内運動場	008	S	2	608	1973	2053	49	31	83	33												改 築
42	放 虎 原 小 学 校	校舎①(普通・特別教室棟)	001	RC	2	1,764	1977	2057	45	35	53	4	長寿命化改修											大規模改造
43		校舎②(管理・普通・特別教室棟)	005	RC	2	1,368	1978	2058	44	36	66	17	長寿命化改修											大規模改造
44		屋内運動場	007	S	2	775	1978	2058	44	36	92	40	長寿命化改修											大規模改造
45		校舎③(普通・特別教室棟)	015	RC	3	613	1983	2063	39	41	94	43	長寿命化改修											大規模改造
46		校舎④(普通・特別教室棟)	019	RC	3	760	1995	2075	27	53	94	43												長寿命化改修
47	旭 が 丘 小 学 校	校舎①(管理・普通・特別教室棟,湯沸室)	001,012	RC	3	1,956	1980	2060	42	38	92	40				長寿命化改修								大規模改造
48		校舎②(普通・特別教室棟)	004	RC	3	1,004	1981	2061	41	39	92	40				長寿命化改修								大規模改造
49		屋内運動場	006	S	2	775	1982	2062	40	40	67	18				長寿命化改修								大規模改造
50		校舎③(普通・特別教室棟)	010	RC	3	625	1990	2070	32	48	87	38											長寿命化改修	長寿命化改修
51	富 の 原 小 学 校	校舎①(管理・普通・特別教室棟,湯沸室)	001,023	RC	3	2,916	1982	2062	40	40	82	32					長寿命化改修							大規模改造
52		屋内運動場	005	S	2	775	1983	2063	39	41	94	43					長寿命化改修							大規模改造
53		校舎②(普通・特別教室棟)	014	RC	3	642	1991	2071	31	49	94	43											長寿命化改修	長寿命化改修
54		校舎③(普通教室棟)	021	RC	2	922	2009	2089	13	67	100	52							大規模改造					

通 番 号	学 校 名	建 物 名	棟 番 号	構 造	階 数	面 積 (㎡)	建 築 年 度 (西 暦)	改 築 予 定 年 次	築 年 数	改 築 ま での 残 年 数	健 全 度	健全度 ランク											
													1 年 目	2 年 目	3 年 目	4 年 目	5 年 目	6 年 目	7 年 目	8 年 目	9 年 目	10 年 目	11年目以降
													令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	
													工事費	工事費	工事費	工事費	工事費	工事費	工事費	工事費	工事費	工事費	
55	玖島 中学校	屋内運動場(体育館,体育館倉庫)	007.027	S	2	1,132	1968	2048	54	26	55	5					改築						大規模改造
56		校舎①(教室学習棟)	022.024	RC	3	2,648	2003	2083	19	61	93	20		大規模改造									長寿命化改修
57		校舎②(芸術科学棟)	023.026	RC	3	2,647	2003	2083	19	61	89	18			大規模改造								長寿命化改修
58		校舎③(管理棟)	025	RC	2	1,346	2003	2083	19	61	100	25				大規模改造							長寿命化改修
59		武道場	030	RC	1	450	2010	2090	12	68	98	24										大規模改造	長寿命化改修
60	西大村 中学校	校舎①(管理・特別教室棟,湯沸室)	001-1,001-2,017	RC	2	1,320	1962		60	0	85	15							改築				大規模改造
61		校舎②(特別教室棟)	002-1,002-2	RC	2	1,468	1961		61	0	72	8							改築				大規模改造
62		校舎③(普通教室棟)	003-1,003-2	RC	2	1,468	1960	2040	62	18	75	10							改築				大規模改造
63		校舎④(特別教室棟,部室)	004.028	S	1	256	1963	2043	59	21	78	13							改築				大規模改造
64		屋内運動場(体育館,体育倉庫)	011-1,011-2	S	2	922	1964	2044	58	22	66	6	改築										大規模改造
65		校舎⑤(特別教室棟)	016	RC	2	1,507	1975	2055	47	33	75	10							改築				大規模改造
66		武道場	022	RC	1	450	1999	2079	23	57	100	25											長寿命化改修
67	萱瀬 中学校	屋内運動場	009	S	2	656	1971	2051	51	29	68	7									改築		大規模改造
68		校舎①(管理・特別教室棟)	014	RC	2	734	1977	2057	45	35	73	9	長寿命化改修										大規模改造
69		校舎②(普通・特別教室棟)	015	RC	3	910	1977	2057	45	35	47	3	長寿命化改修										大規模改造
70	郡 中学校	校舎①(特別教室棟)	009	S	1	239	1962	2042	60	20	83	14											改築
71		屋内運動場(体育館,体育倉庫)	013.029	S	2	969	1966	2046	56	24	46	2			改築								大規模改造
72		校舎②(特別・普通教室棟)	017	RC	3	2,158	1974	2054	48	32	53	4											改築
73		校舎③(特別・普通教室棟)	018.019	RC	3	2,098	1975	2055	47	33	43	1											改築
74		武道場	037	RC	1	450	2001	2081	21	59	100	25	大規模改造										長寿命化改修
75		校舎④(管理・特別教室棟)	038	RC	2	1,651	2014	2094	8	72	100	25											大規模改造
76	大村 中学校	校舎①(管理・普通・特別教室棟)	001	RC	4	4,986	1985	2065	37	43	92	19								長寿命化改修			大規模改造
77		屋内運動場	002	S	2	1,011	1985	2065	37	43	87	16								長寿命化改修			大規模改造
78		校舎②(特別教室棟)	012	RC	3	596	1993	2073	29	51	87	16											長寿命化改修
79		武道場	016	RC	2	516	2010	2090	12	68	93	20											大規模改造
80	桜が原 中学校	校舎①(管理・普通・特別教室棟)	001	RC	3	4,845	1986	2066	36	44	94	22									長寿命化改修		大規模改造
81		屋内運動場	002	S	2	1,011	1986	2066	36	44	77	12										長寿命化改修	大規模改造
82		校舎②(普通・特別教室棟)	010	RC	3	593	1993	2073	29	51	94	22											長寿命化改修
83		武道場	013	RC	1	450	2010	2090	12	68	100	25											大規模改造
84		校舎③(普通・特別教室棟)	014	RC	2	905	2011	2091	11	69	100	25											大規模改造

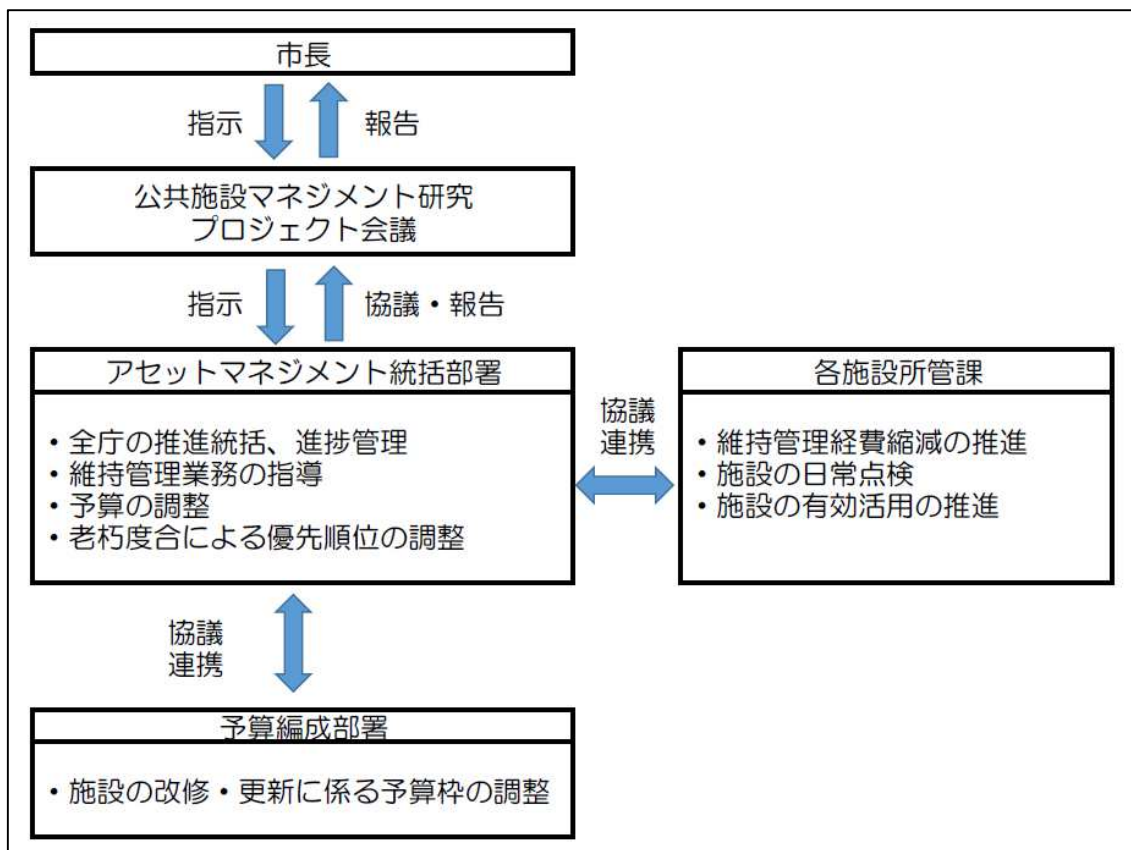
第7章 長寿命化計画の継続的運営方針

1 推進体制等の整備

本計画に基づき、担当部署と各小中学校が協力・連携し、必要な改修等を計画的・効率的に取り組んでいくものです。さらに、他の公共施設の長寿命化計画との関係や財政の状況、改修の検討に必要な技術的支援など、関係各課と協議・協力しながら推進していくことが重要であるため、学校施設の長寿命化を実効的に推進するための体制を構築し、取り組んでいきます。



学校施設長寿命化の推進体制



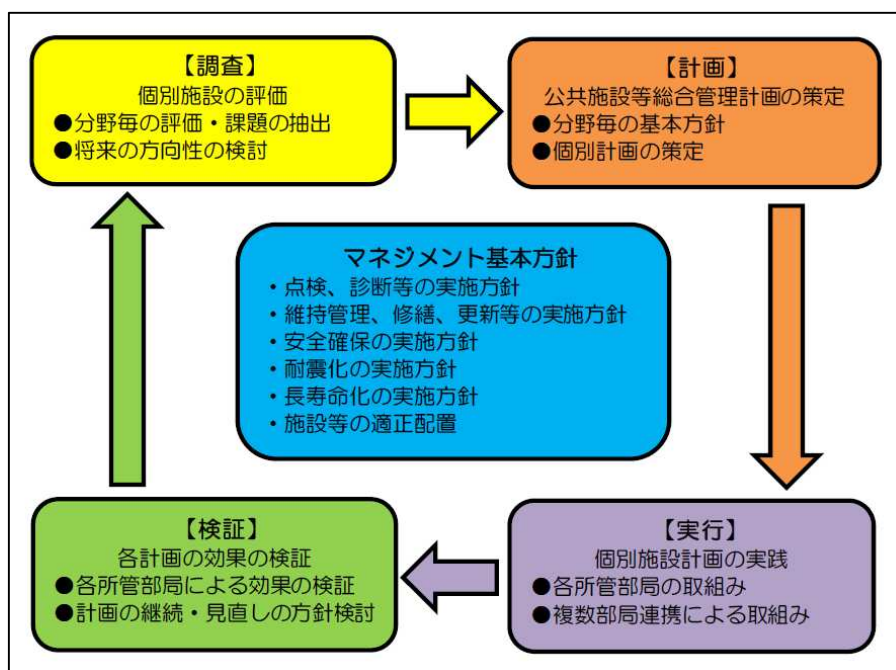
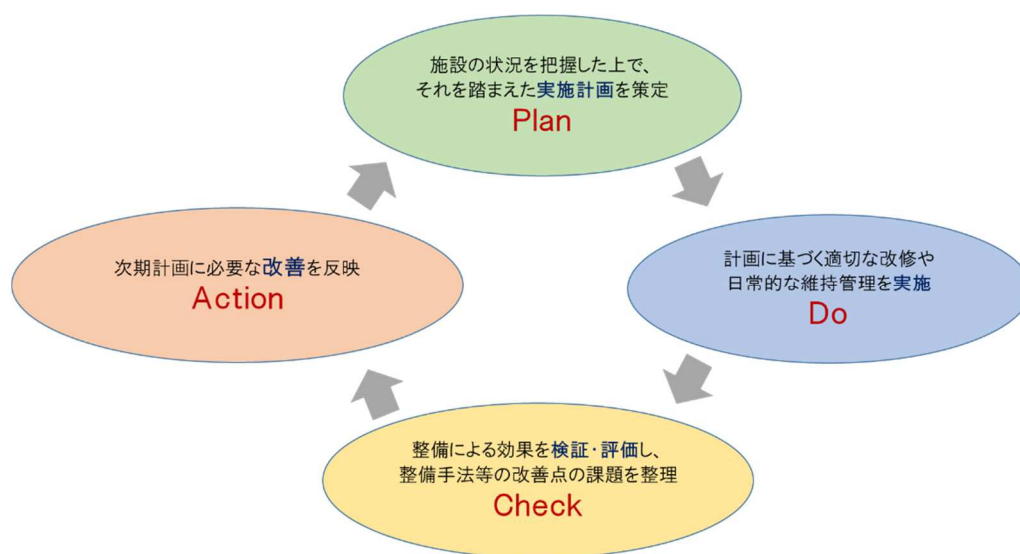
大村市アセットマネジメント事業の推進体制

(出典：大村市アセットマネジメント事業計画)

2 フォローアップ

効率的・効果的な施設整備を進めていくためには、本計画に基づき適切な改修や維持管理を行うだけでなく、常に施設の現状を的確に把握し、問題点を検証・改善するとともに、計画の進捗状況や目標達成状況を正確に把握するというPDCAサイクルを確立し、的確にフォローアップしていきます。

また、本計画は計画の進捗状況のフォローアップの結果や社会環境の変化等の状況を踏まえ、必要に応じ見直しを行うこととします。更に本計画は、大村市公共施設等総合管理計画の全庁的な公共施設マネジメントサイクルの一環を形成します。



大村市公共施設マネジメントサイクル（出典：大村市公共施設等総合管理計画）